

# Arcserve® Unified Data Protection v5

## Arcserve UDP 構成/運用ガイド

～バックアップ専用 LAN および  
遠隔地データ転送の設定と運用手順～

2015年 9月

REV: 1.0

# 目次

はじめに .....	1
<b>1. 専用 LAN を利用したバックアップ環境構築 .....</b>	<b>3</b>
1.1 バックアップ対象サーバの登録 .....	4
<参考> 「ファイルからインポート」を利用してノードを追加する方法 .....	7
<b>2. バックアップおよび遠隔地へのデータ転送プランの作成と手動実行 .....</b>	<b>10</b>
2.1 バックアップおよびレプリケートプラン作成 .....	11
2.2 プランの手動実行 .....	18
<b>3. 災害対策サイトからの復旧手順 .....</b>	<b>22</b>
3.1 RPS ジャンプスタート機能を利用する手順 .....	23
3.2 レプリケートタスクを利用する手順 .....	34
<b>4. 製品情報と無償トレーニング情報 .....</b>	<b>36</b>
4.1 製品情報および FAQ はこちら .....	36
4.2 トレーニング情報 .....	36

変更履歴：

2015 年 9 月作成

注意：この資料は 2015 年 9 月 1 日現在の製品をもとに記述しています。

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。

本ガイドは情報提供のみを目的としています。Arcserve は本情報の正確性または完全性に対して一切の責任を負いません。Arcserve は、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証（商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する黙示の保証を含みます（ただし、これに限定されません））も伴わずに、このドキュメントを「現状有姿で」提供します。Arcserve は、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など（ただし、これに限定されません）、このドキュメントに関連する直接損害または間接損害については、Arcserve がその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。

## はじめに

Arcserve® Unified Data Protection (以降 UDP と表記) は、Arcserve D2D (以降 D2D と表記)の後継製品で、D2D 以外に Arcserve Backup や Arcserve Replication / High Availability の一部の機能を包括しています。このため、小規模なコンピューティング環境だけでなく、大規模環境または災害対策、事業継続などのデータ保護ニーズに対応できるディスク ベースのシステム保護ソリューションです。

導入から運用を開始するまで、ほんのわずかな時間と設定で済むだけでなく、一度運用を始めるとほとんど専門知識や手間をかける必要がないため、バックアップ運用管理者の手薄な地方拠点や小規模な部門、またはデータセンターでも安心してお使いいただくことができます。UDP の詳細については以下を参照ください。

<http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Presentations/asudp-v5-presentation.pdf>

### Arcserve D2Dをベースに機能を大幅に拡張し、 Arcserve シリーズ 3製品を統合した バックアップ/リカバリソリューション



本ガイドは大規模環境などでの運用を想定し、UDP 管理コンソールと復旧ポイントサーバを使用した構成を使用します。UDP 管理コンソールは Windows や Linux の物理サーバや仮想マシンなど複数の保護対象マシンを 1 画面で統合管理できます。また、WEB 形式の管理 GUI なのでブラウザが使用できる環境であればどこからでもバックアップ状況の確認や操作ができます。

復旧ポイントサーバを利用すると、バックアップデータの重複排除機能や遠隔地転送などが可能となるため、バックアップだけでなく災害対策まで実施できます。

## 本ガイドの手順

本ガイドは Windows サーバを UDP エージェントで RPS にバックアップし、さらに災害対策サイトの RPS にバックアップデータを転送する構成と、災害対策サイトのデータを使って本番サイトを復旧するための手順を説明します。各手順の説明は、以下の流れです。

### 手順 1. 専用 LAN を利用したバックアップ環境構築

\* [本手順書の Page: 3 ~ Page: 9 参照](#)

### 手順 2. バックアップおよび遠隔地へのデータ転送プランの作成と手動実行

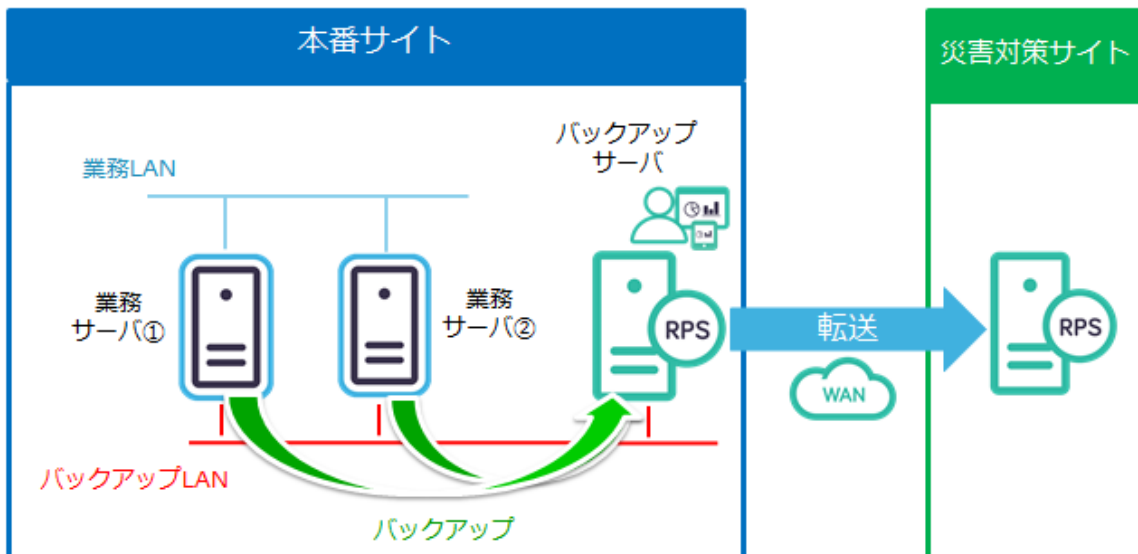
\* [本手順書の Page: 10 ~ Page: 21 参照](#)

### 手順 3. 災害対策サイトのバックアップデータを使った本番サイトの復旧

\* [本手順書の Page: 22 ~ Page: 35 参照](#)

説明手順は、ご使用の環境により一部手順が異なる場合がありますのでご注意ください。

#### ▶ 本ガイドの構成



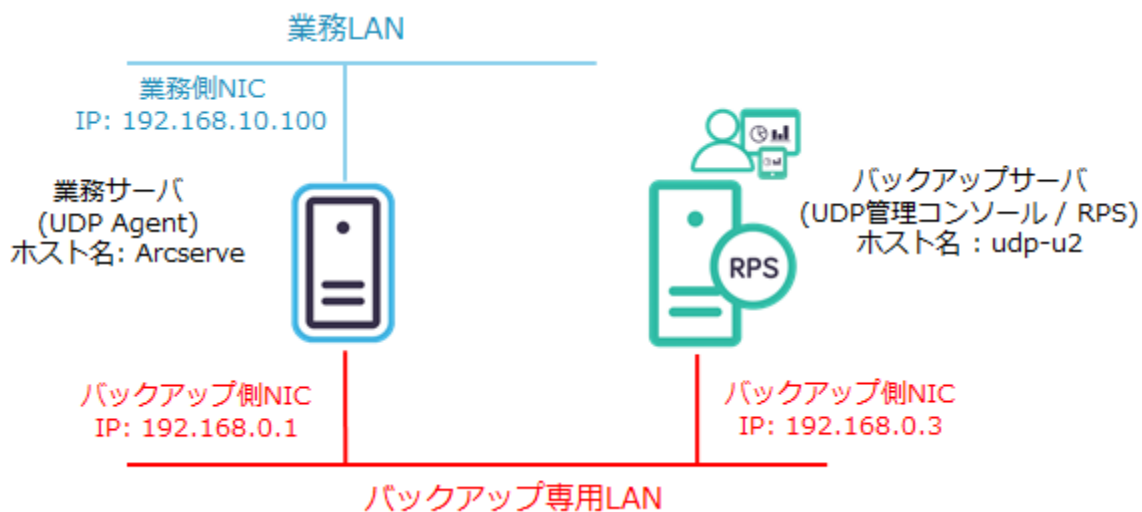
## 1. 専用 LAN を利用したバックアップ環境構築

本手順では、以下のようなバックアップ専用 LAN を利用した環境で、UDP 管理コンソールにバックアップ対象を登録する手順を紹介します。

※ バックアップ専用 LAN 利用環境の構築条件:

- ・業務 LAN へのネットワークトラフィックを防ぐため、RPS はバックアップ専用 LAN のみ接続して下さい。
- ・UDP の設定や操作でホスト名を利用する場合、バックアップサーバとバックアップ対象の各サーバの Hosts ファイルに、あらかじめお互いのサーバのホスト名を追加してください。

### > バックアップ専用 LAN の構成例



### > 各 UDP コンポーネントの構築手順について

Windows 用 UDP Agent の導入手順については、以下を参照ください。

「Arcserve Unified Data Protection v5 Agent 環境構築ガイド(インストールからベアメタル復旧の手順)」  
[http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp\\_v5\\_agent\\_BMR\\_guide.pdf](http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp_v5_agent_BMR_guide.pdf)

UDP 管理コンソールと復旧ポイントサーバの構築手順については、以下を参照ください。

「Arcserve Unified Data Protection v5 環境構築ガイド (インストール、データストア構築の手順)」  
[http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp\\_v5\\_full\\_install\\_guide.pdf](http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp_v5_full_install_guide.pdf)

注意) 本ガイドの手順を実施するためには、UDP Update 2 以降の適用が必要です。

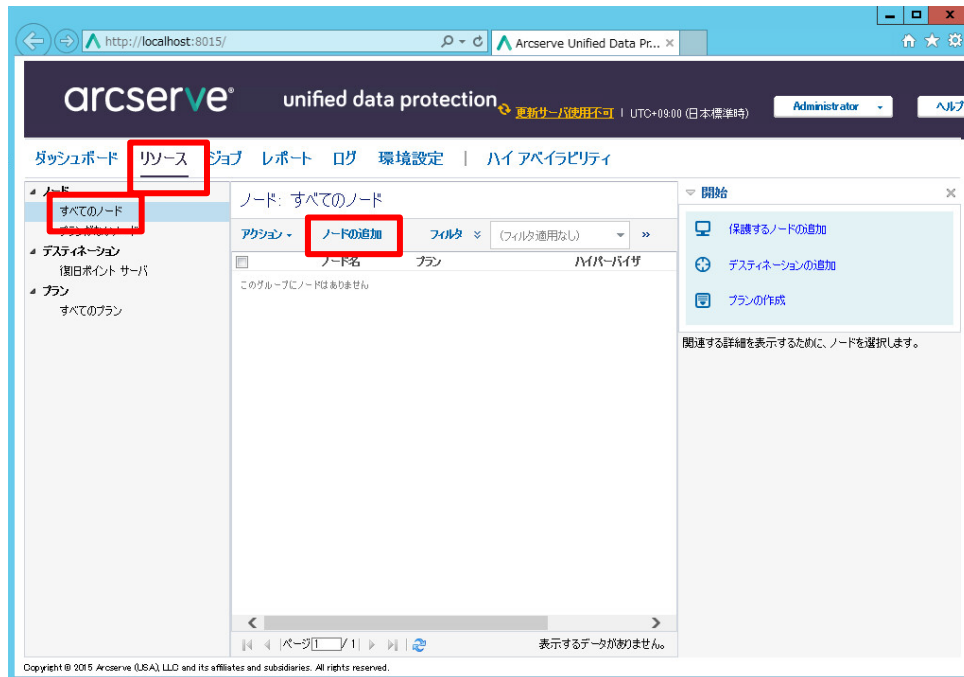
Update 1 以前の環境をご利用の場合は、以下から UDP の最新 Update をダウンロードして適用下さい。

- ・ Arcserve Unified Data Protection Version 5.0 ダウンロード情報一覧  
<https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/articles/202756405>

## 1.1 バックアップ対象サーバの登録

### (1) [ノードの追加]

UDP 管理コンソール画面にログインし、[リソース]タブをクリックします。左ペインにて[ノード] - [すべてのノード]が選択されていることを確認し、[ノードの追加]をクリックします。



※ [ノードの追加]で複数サーバを一括で登録したい場合は、Page: 7 "[<参考> 「ファイルからインポート」を利用してノードを追加する方法](#)" を参照ください。

## (2) [Arcserve UDP コンソールへのノード追加]

[ノードの追加]から[Windows ノードの追加]を選択し、バックアップ対象ノードの情報を入力します。

下图の枠内に、バックアップ対象ノード名 (本ガイドでは"arcserve"を指定) または IP アドレス、対象ノードの管理者権限のあるユーザ名、パスワードを入力し、[リストに追加]をクリックします。

The screenshot shows the 'Arcserve UDP コンソールへのノード追加' (Add Node to Arcserve UDP Console) page. The 'ノードの追加' (Add Node) dropdown is set to 'Windows ノードの追加' (Add Windows Node). The form fields are as follows:

ノード名/IP アドレス	arcserve
ユーザ名	Administrator
パスワード	●●●●●●●●
説明の追加	
Arcserve Backup	<input type="checkbox"/> インストール完了
認証の種類	Windows 認証
ユーザ名	Administrator
パスワード	●●●●●●●●
ポート	8054

The 'リストに追加' (Add to List) button is highlighted with a red box. The right-hand table is empty, with the message 'ノードをリストに追加していません。' (No nodes added to the list).

右側に登録されたノードが表示されるので確認して、[保存]をクリックします。

※対象を複数登録する場合には、手順(2)を繰り返します

The screenshot shows the 'Arcserve UDP コンソールへのノード追加' (Add Node to Arcserve UDP Console) page. The 'ノードの追加' (Add Node) dropdown is set to 'Windows ノードの追加' (Add Windows Node). The form fields are as follows:

ノード名/IP アドレス	
ユーザ名	Administrator
パスワード	●●●●●●●●
説明の追加	
Arcserve Backup	<input type="checkbox"/> インストール完了
認証の種類	Windows 認証
ユーザ名	Administrator
パスワード	●●●●●●●●
ポート	8054

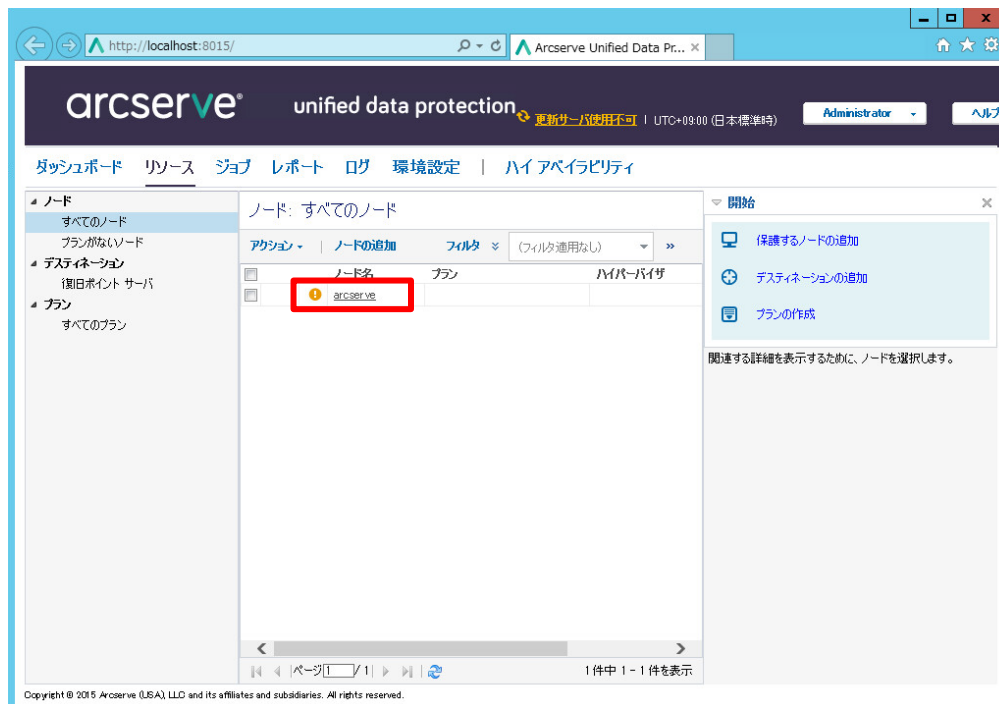
The 'リストに追加' (Add to List) button is highlighted with a red box. The right-hand table now contains one entry:

ノード名	VM 名	ハイパーバイザ
<input checked="" type="checkbox"/> arcserve		

The '保存' (Save) button is highlighted with a red box.

## (3) ノード追加の確認

追加したノードが[すべてのノード]一覧に表示されていることを確認します。



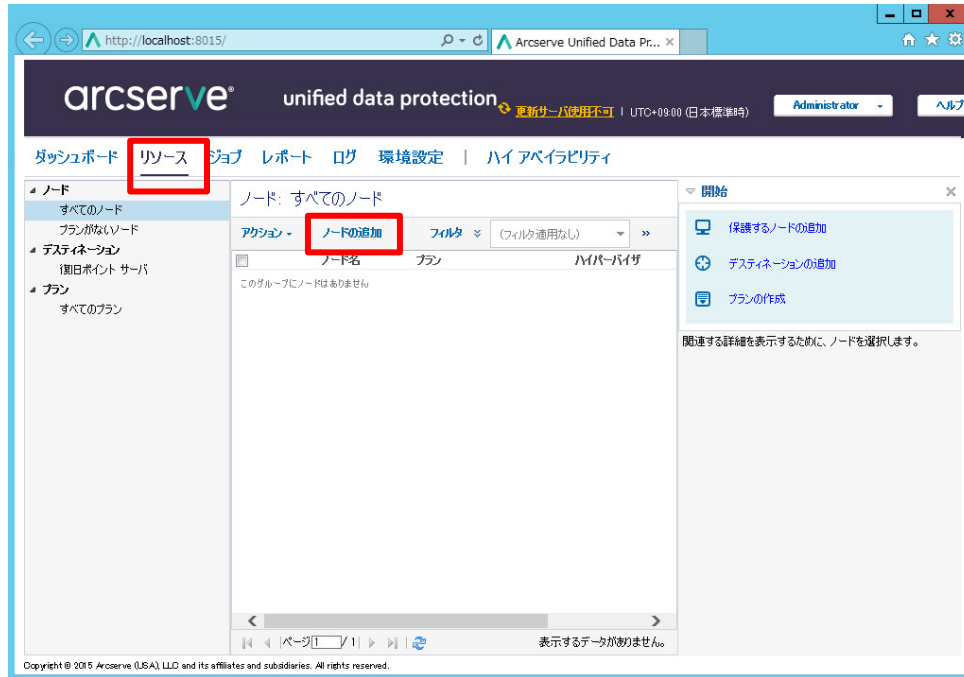


## <参考> 「ファイルからインポート」を利用してノードを追加する方法

あらかじめ「<ノード名>, <ユーザ名>, <パスワード>」の形式で CSV または TXT ファイルを用意します。

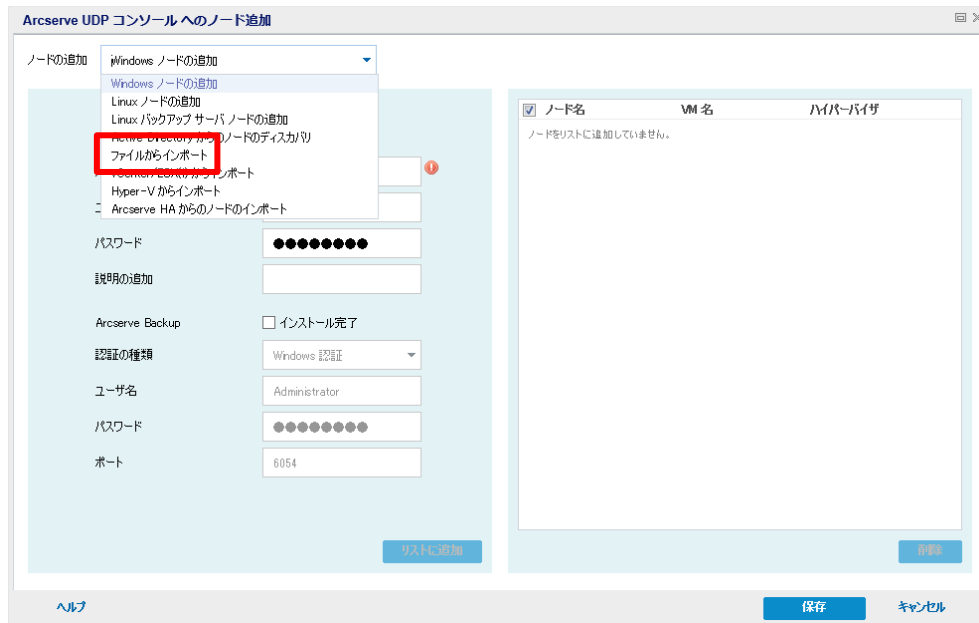
### (1) [ノードの追加]

UDP 管理コンソール画面にログインし、[リソース]タブをクリックします。左ペインにて[ノード] - [すべてのノード]が選択されていることを確認し、[ノードの追加]をクリックします。



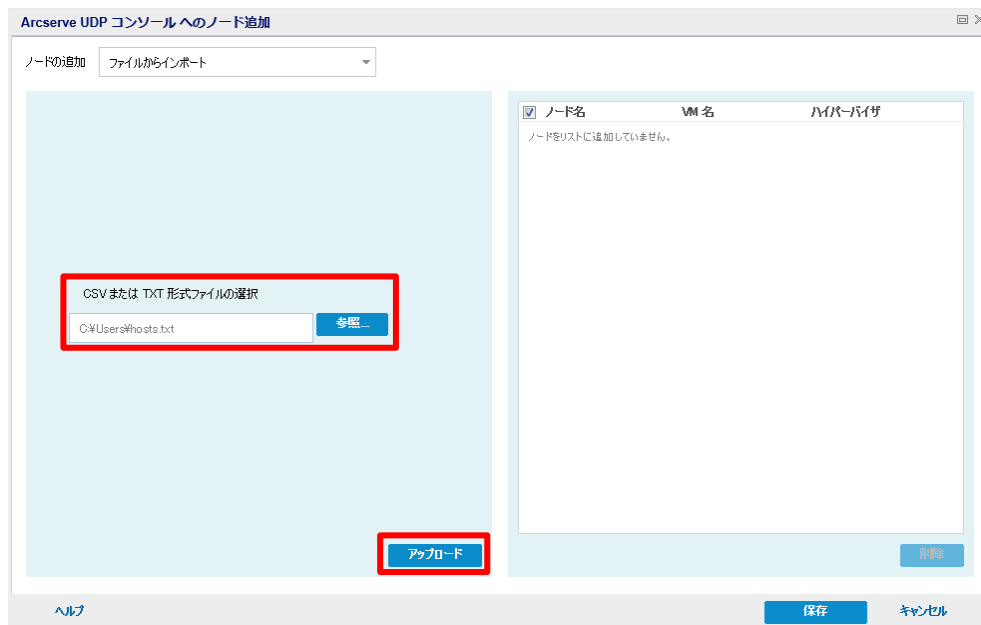
### (2) [ファイルからインポート]

[ノードの追加]をクリックし、プルダウンの選択肢から[ファイルからのインポート]を選択します。



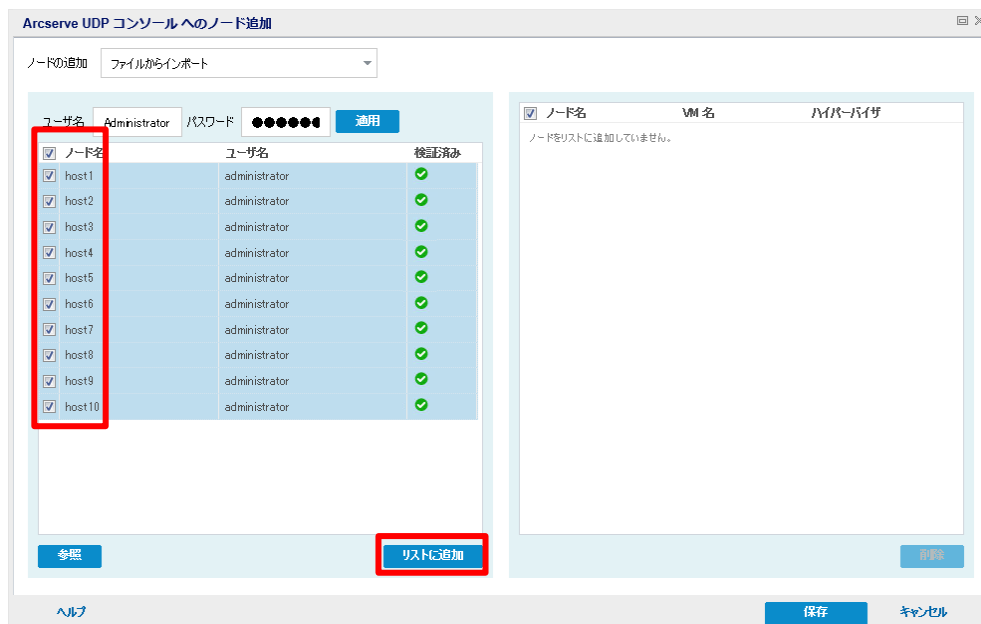
## (3) [アップロード]

[CSV または TXT 形式ファイルの選択]で、事前に準備したファイルを指定して [アップロード]をクリックします。



## (4) [リストに追加]

バックアップ対象のノードにチェックを入れ、 [リストに追加]をクリックします。



## (5) 追加されたノードの保存

バックアップ対象のノードが右側に登録されたことを確認して、[保存]をクリックします。

Arcserve UDP コンソールへのノード追加

ノードの追加: ファイルからインポート

ユーザ名: Administrator パスワード: ●●●●●● 適用

ノード名	ユーザ名	検証済み
<input type="checkbox"/> host1	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host2	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host3	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host4	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host5	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host6	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host7	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host8	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host9	administrator	✓
<input type="checkbox"/> host10	administrator	✓

ノード名	VM名	ハイパーバイザ
<input checked="" type="checkbox"/> host1		
<input type="checkbox"/> host2		
<input type="checkbox"/> host3		
<input type="checkbox"/> host4		
<input type="checkbox"/> host5		
<input type="checkbox"/> host6		
<input type="checkbox"/> host7		
<input type="checkbox"/> host8		
<input type="checkbox"/> host9		
<input type="checkbox"/> host10		

参照 リストに追加 削除

ヘルプ 保存 キャンセル

## 2. バックアップおよび遠隔地へのデータ転送プランの作成と手動実行

本手順では UDP 管理コンソールを使い、1. の手順で追加したノードのバックアップデータを遠隔地に転送するプランの作成手順を紹介します。

### <参考> プランとは

プランとは、1つまたは複数のデータ保護を行う処理（以下、“タスク”）を集約し、定義したものです。それぞれのタスクで実行スケジュールや通知設定などを設定することができます。

また、1つのプランに複数のタスクを設定することによってタスクの関連性を定義することもできます。

今回の手順では、以下の2つのタスクを1つのプランを使用します。

タスク名 1: “バックアップ: エージェントベース Windows”

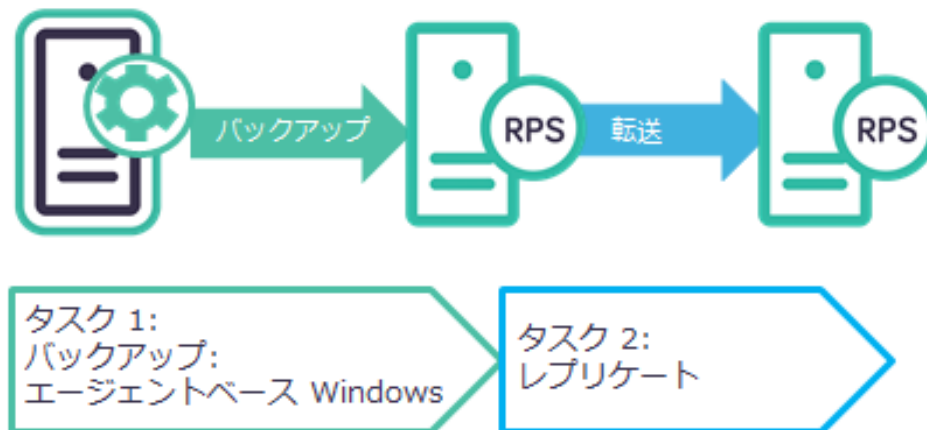
⇒ Windows サーバをエージェント経由でバックアップするタスク

タスク名 2: “レプリケート”

⇒ バックアップデータを遠隔転送するタスク

> バックアップデータを遠隔地に転送するプラン全体の処理の流れ

タスク1のバックアップ タスクが完了してから、タスク2のレプリケート タスクが実行されます。



※ プランを作成する前に、転送元および転送先の復旧ポイントサーバ (RPS) をそれぞれ UDP 管理コンソールに登録してください。RPS の登録手順については、以下を参照ください。

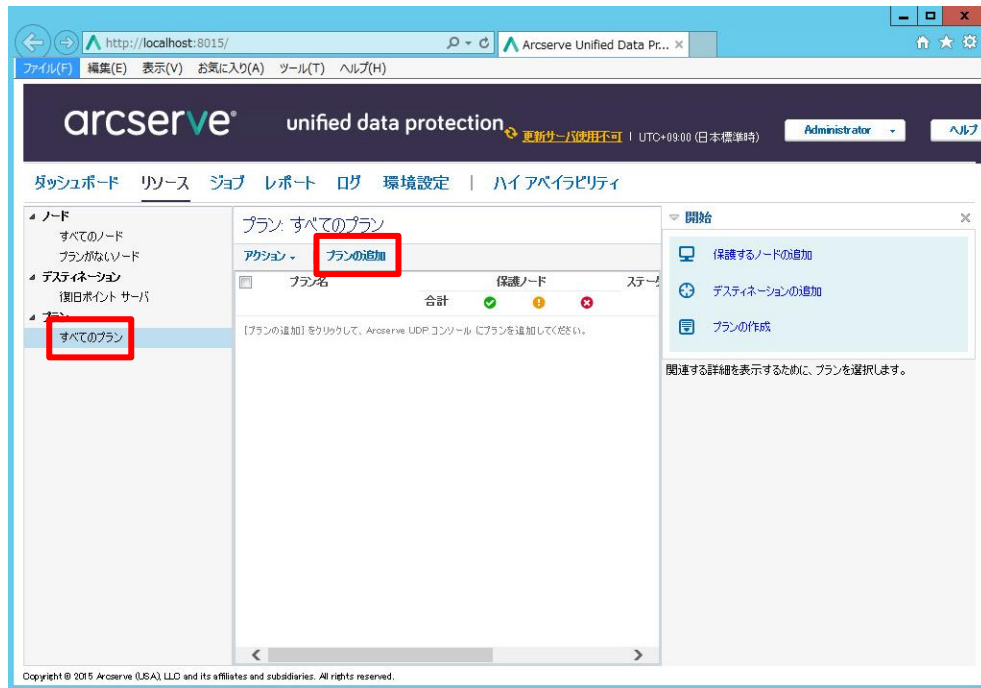
「Arcserve Unified Data Protection v5 環境構築ガイド (インストール、データストア構築の手順)」

[http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp\\_v5\\_full\\_install\\_guide.pdf](http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp_v5_full_install_guide.pdf)

## 2.1 バックアップおよびレプリケートプラン作成

### (1) [プランの追加]

バックアップを行うプランを作成し、追加したノードに割り当てます。左ペインから[プラン] - [すべてのプラン]を選択し、[プランの追加]をクリックします。

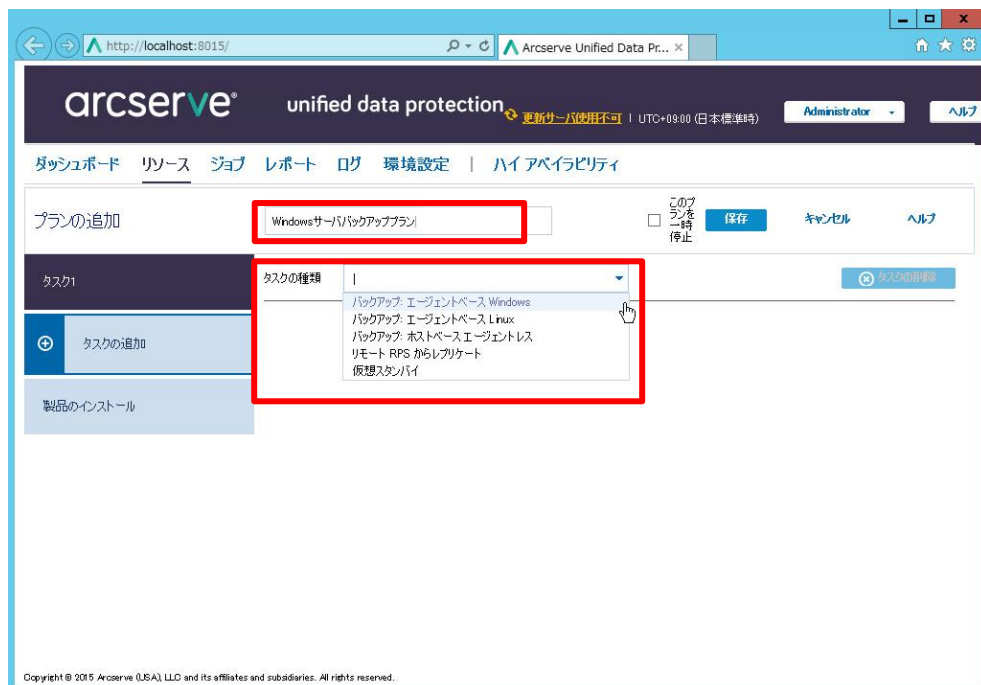


### (2) プラン名の入力および、[タスクの種類]の選択

[プランの追加]画面で任意のプラン名を入力します。

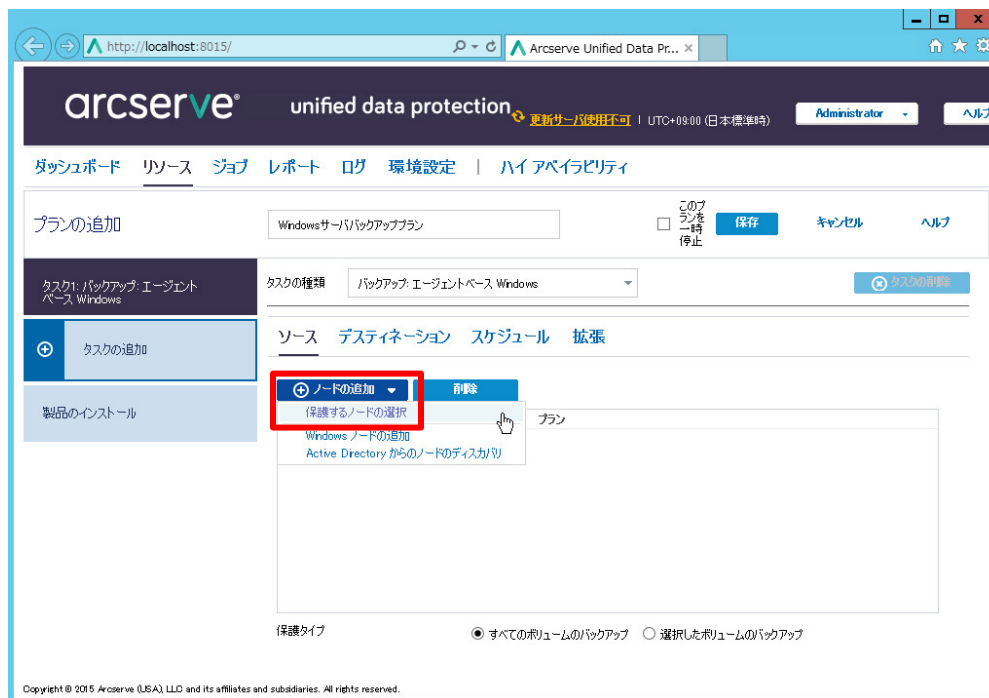
(本ガイドではプラン名を“Windows サーババックアッププラン”と指定)

続いて、[タスクの種類]プルダウンから、[バックアップ: エージェントベース Windows]を選択します。



## (3) [ソース]の選択

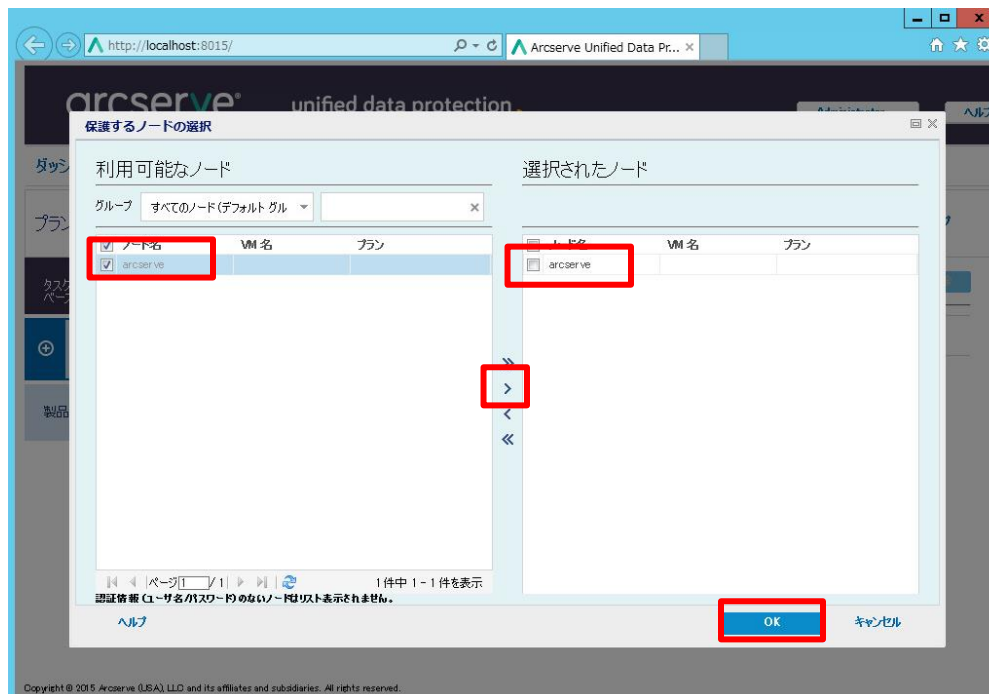
[ソース]タブにてバックアップ対象のノードを指定するため、[ノードの追加]ボタンをクリックし、[保護するノードの選択]を選択します。



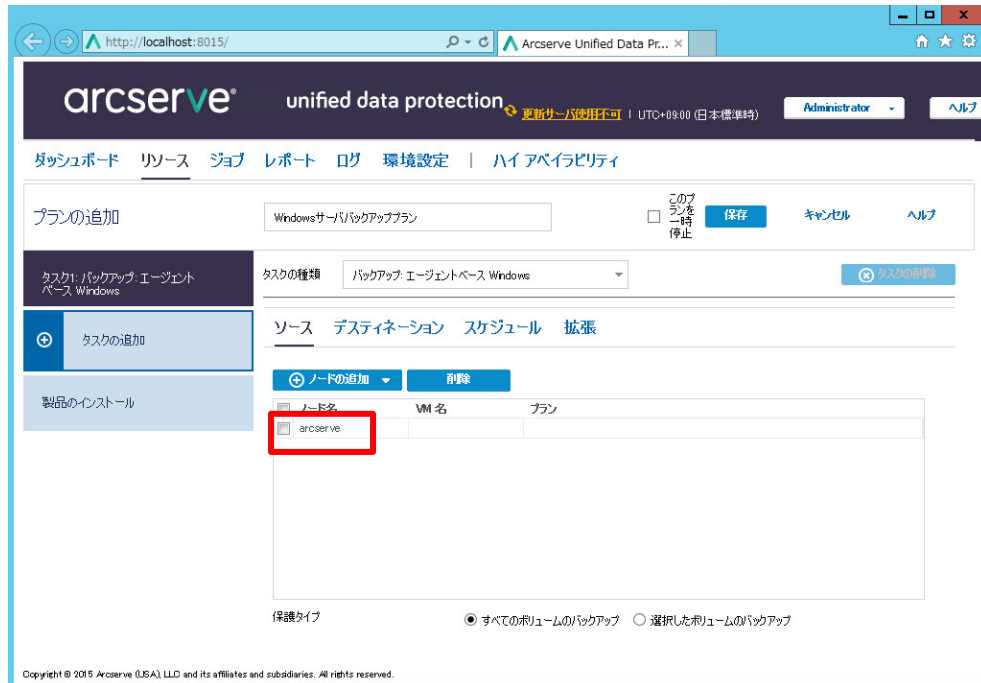
[保護するノードの選択]画面が表示されます。利用可能なノードが一覧表示されますので、追加したいノードにチェックを入れ、右矢印ボタン( > )をクリックしてください。

(本ガイドでは 1.1 で追加したバックアップ対象ノード"arcserve"を指定)

[選択されたノード]にバックアップ対象ノードが選択されたことを確認し、[OK]をクリックします



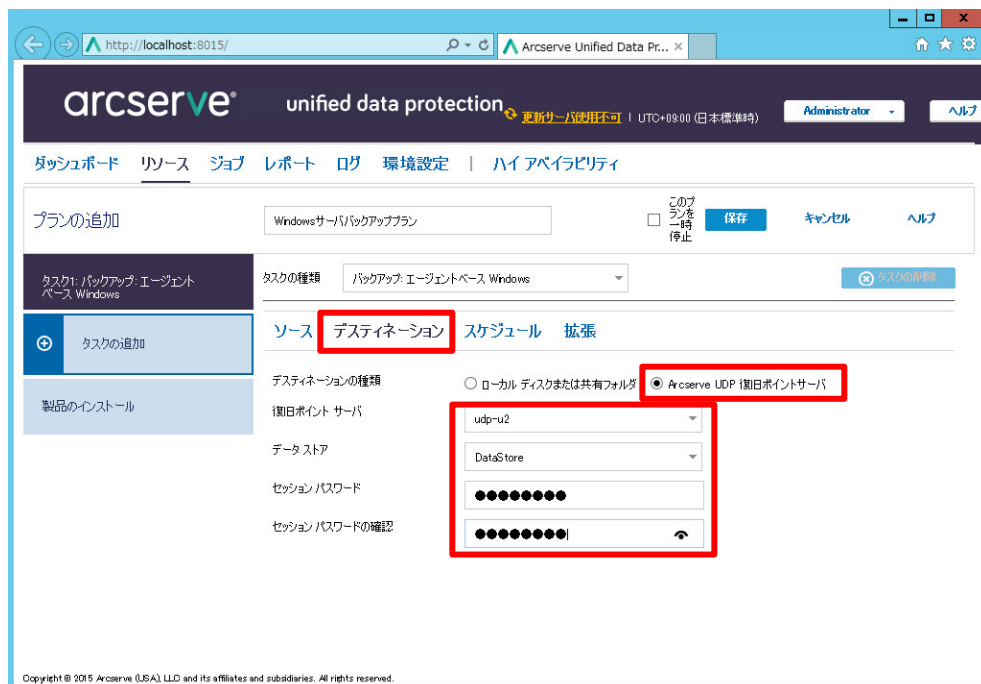
ノードの選択画面に戻ります。選択したノードが一覧に表示されていることを確認します。



#### (4) [デスティネーション]の設定

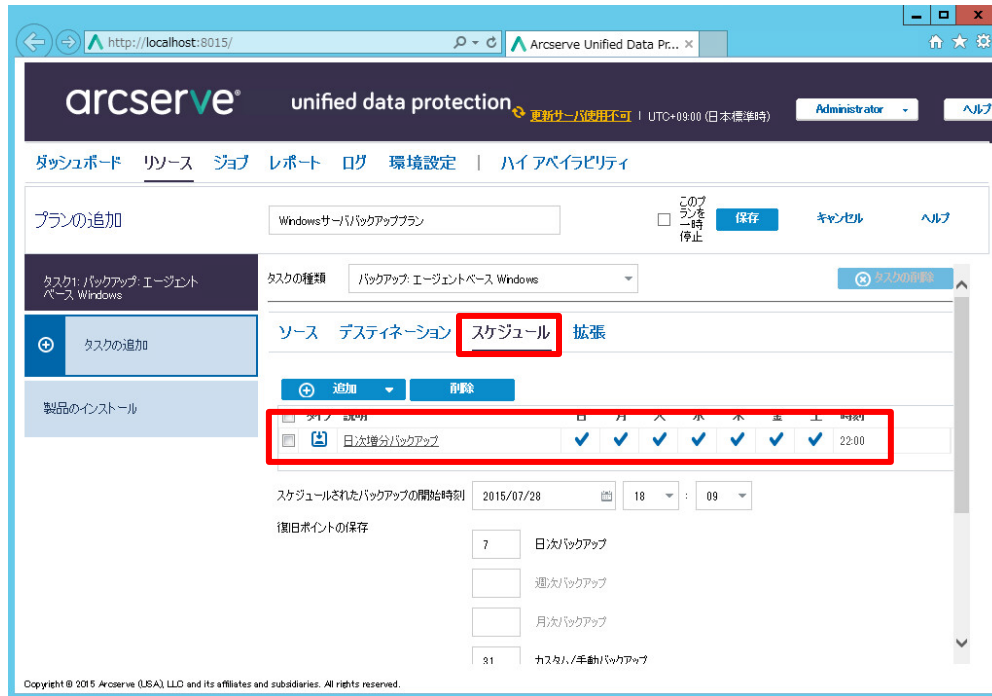
[デスティネーション]タブをクリックし、バックアップデータの格納先を設定します。[デスティネーションの種類]にて、[Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ]を選択します。(本ガイドでは"udp-u2"を指定)

[復旧ポイント サーバ]でバックアップ先の RPS を選択し、[データ ストア]にて追加したデータストアをそれぞれプルダウンから選択してください。デスティネーションに RPS を使用する場合、バックアップデータを保護するため任意のセッション パスワードを入力してください。なお、設定したパスワードはリストア時に必要ですので忘れないよう適切に管理してください。

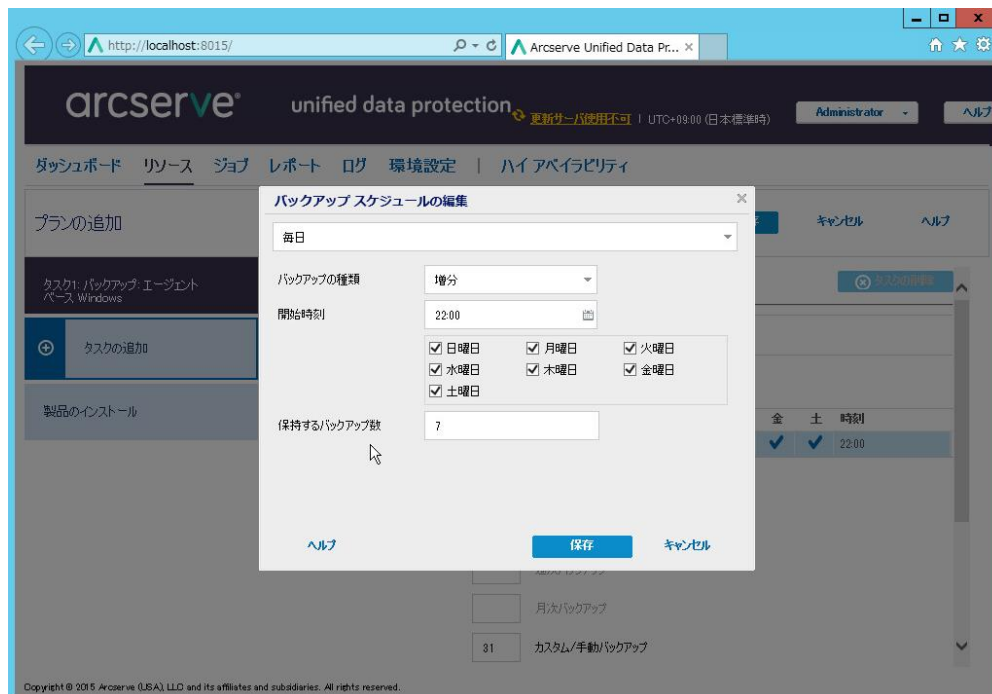


## (5) [スケジュール]の設定

[スケジュール]タブをクリックし、スケジュール設定をします。デフォルトで[日次増分バックアップ]が設定されており、毎日午後 10 時からの増分バックアップがスケジュールされています。必要に応じてスケジュールの変更や追加をしてください。ここではデフォルトのままを進めます。



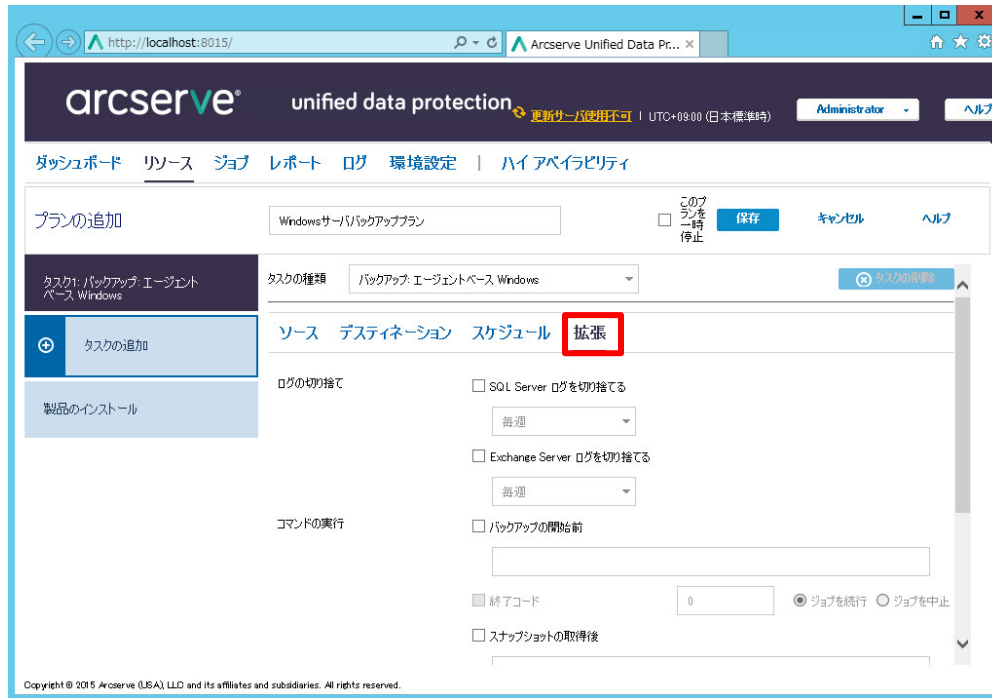
(参考) 日次増分バックアップをクリックした際に表示されるスケジュール編集画面です。バックアップの種類、開始時刻、曜日指定、保持バックアップ数が設定できます。(保持バックアップ数は、日次、月次、週次、または曜日指定のバックアップスケジュールでそれぞれ異なります)





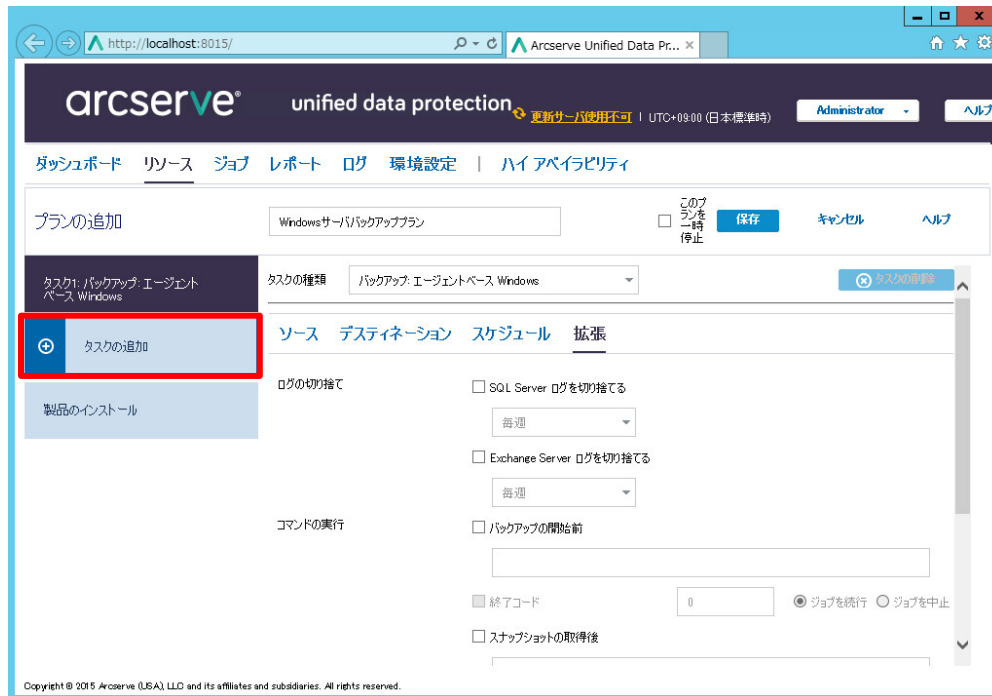
## (6) [拡張]の設定

[拡張]タブをクリックします。ジョブ前後のコマンド実行設定やメール通知の設定等の詳細設定が行えますが、本ガイドでは設定をせずに進めます。



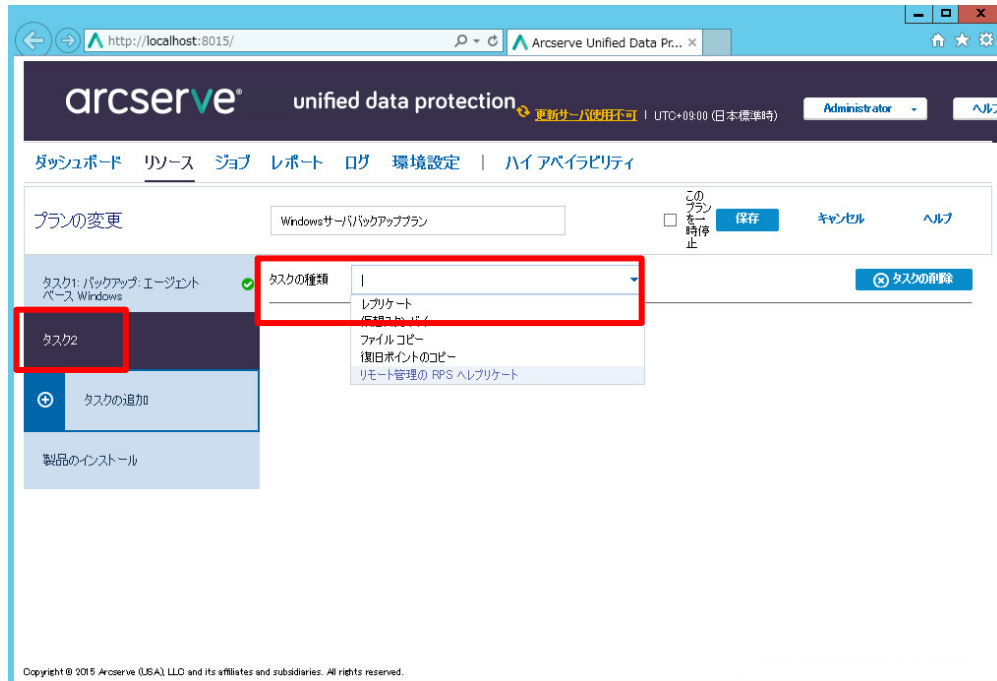
## (7) [タスクの追加]

[タスクの追加]タブをクリックし、レプリケート タスク を追加します。



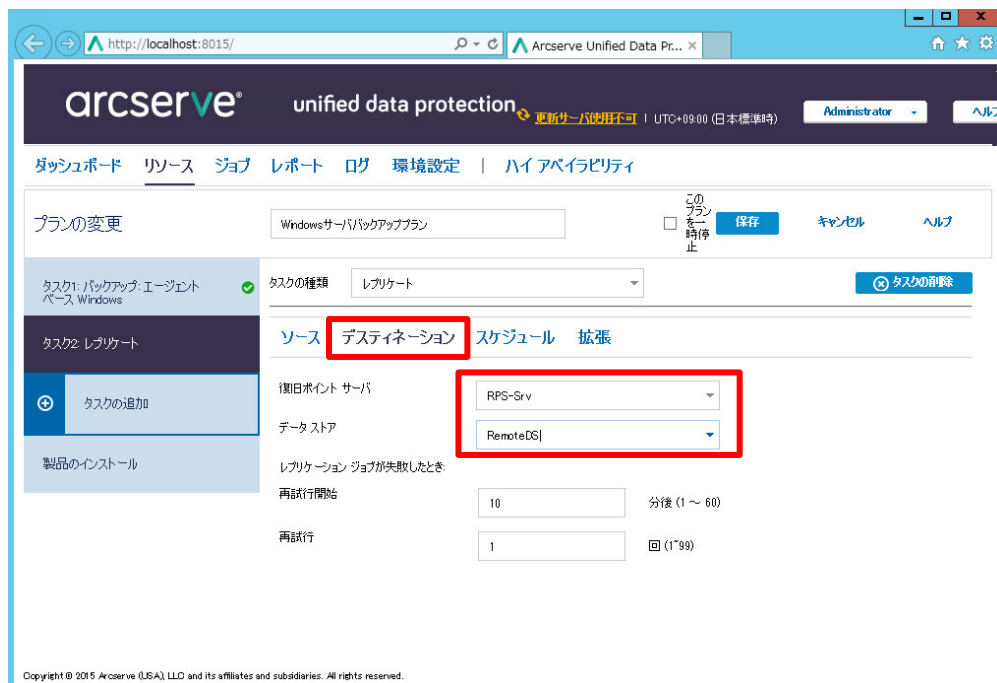
## (8) [タスクの種類]の選択

[タスク 2]の[タスクの種類]から[レプリケート]を選択します。



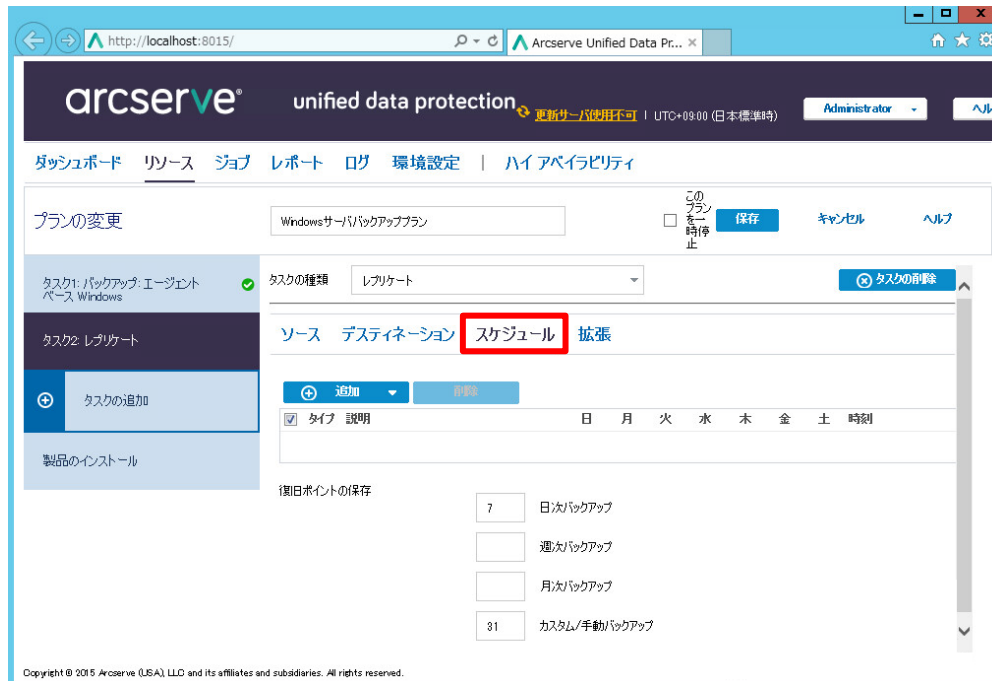
## (9) [ディスティネーション]の設定

[ディスティネーション]タブをクリックし、バックアップデータの転送先の復旧ポイントサーバを設定します。  
[復旧ポイント サーバ]で転送先の復旧ポイントサーバを選択し、[データ ストア]にてデータストアをそれぞれプルダウンから選択してください。



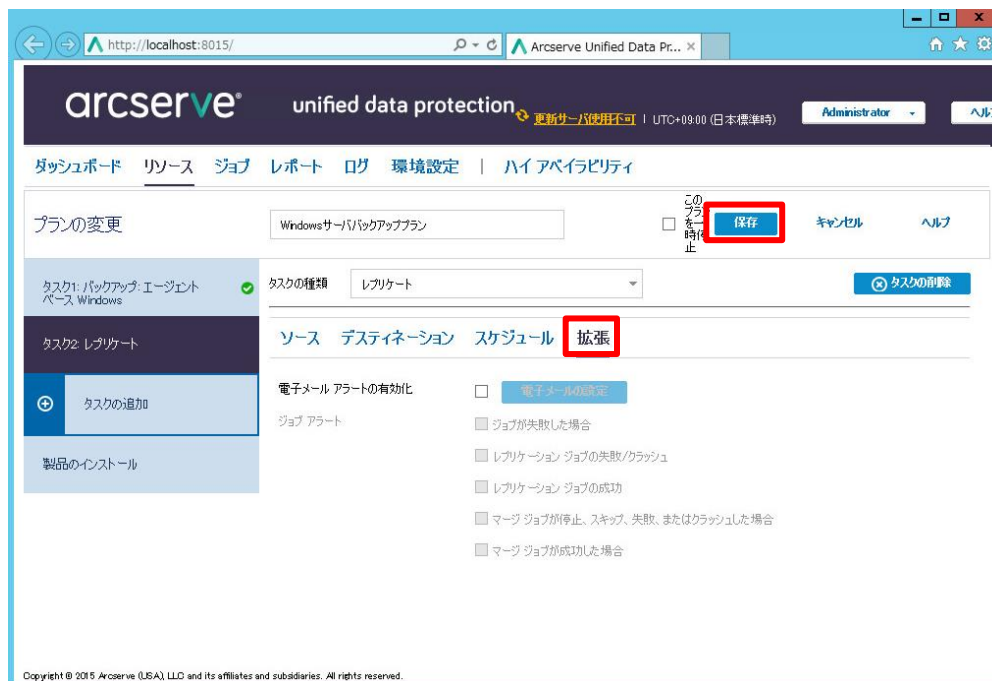
## (10)[スケジュール]の設定

[スケジュール]タブをクリックします。デフォルトではスケジュールは設定されておらず、バックアップタスクが完了するとすぐにレプリケートタスクが実行されます。もしレプリケートタスクの実行を時間指定で行う場合は、スケジュールを追加してください。スケジュールの設定手順はバックアップタスクと同じです。ここではデフォルトのままを進めます。



## (11)プラン設定の保存

[拡張]タブでは、メール通知の設定が行えますが本ガイドでは設定をせずに進めます。  
[保存]ボタンをクリックし、プランを保存します。以上でプラン作成は終了です。

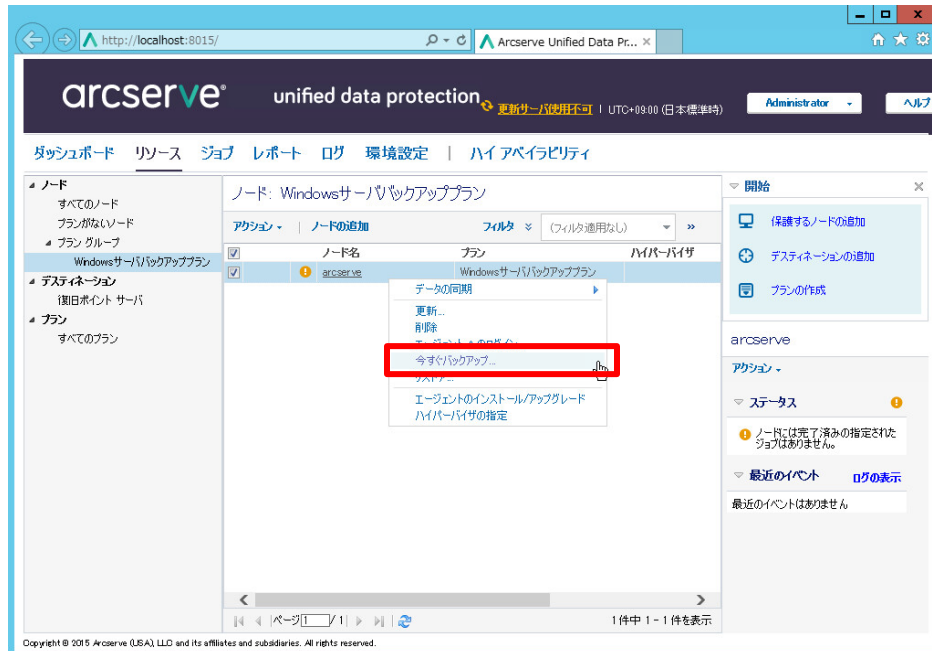


## 2.2 プランの手動実行

### (1) バックアップの手動実行

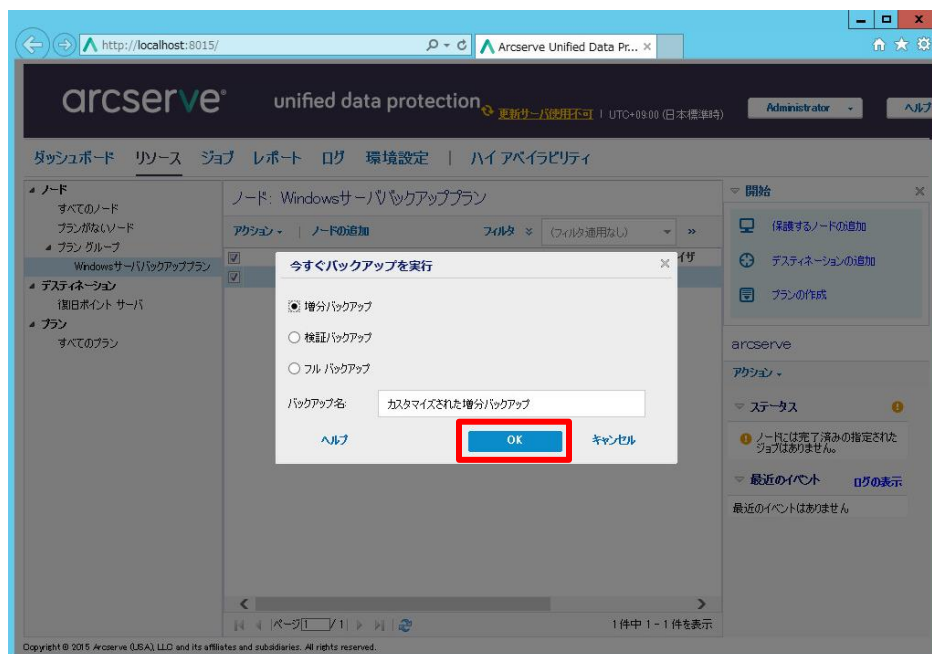
作成したプランを手動で実行するためには、バックアップを実行します。追加されたプランを選択して、対象ノードを右クリックして出てくるメニューから、[今すぐバックアップ]をクリックします。

(対象ノードを選択し、[アクション] - [今すぐバックアップ] から選択できます)

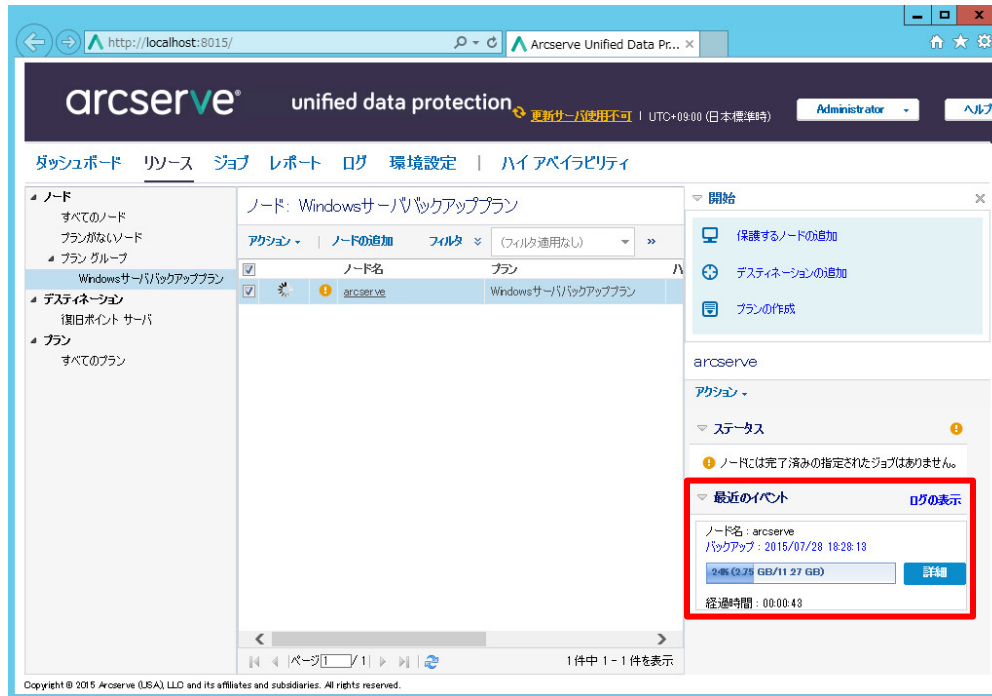


### (2) [今すぐバックアップを実行]

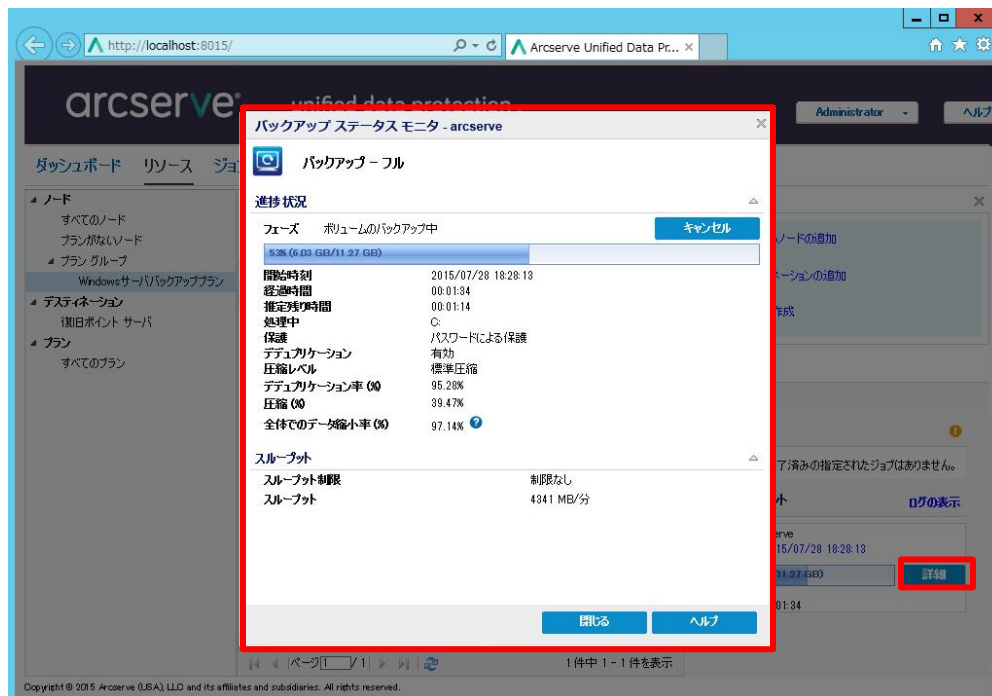
デフォルトでは増分バックアップが選択されていますが、移行後初めてのバックアップは自動的にフルバックアップに変換されます。[バックアップ名]を任意で入力し、[OK]をクリックします。



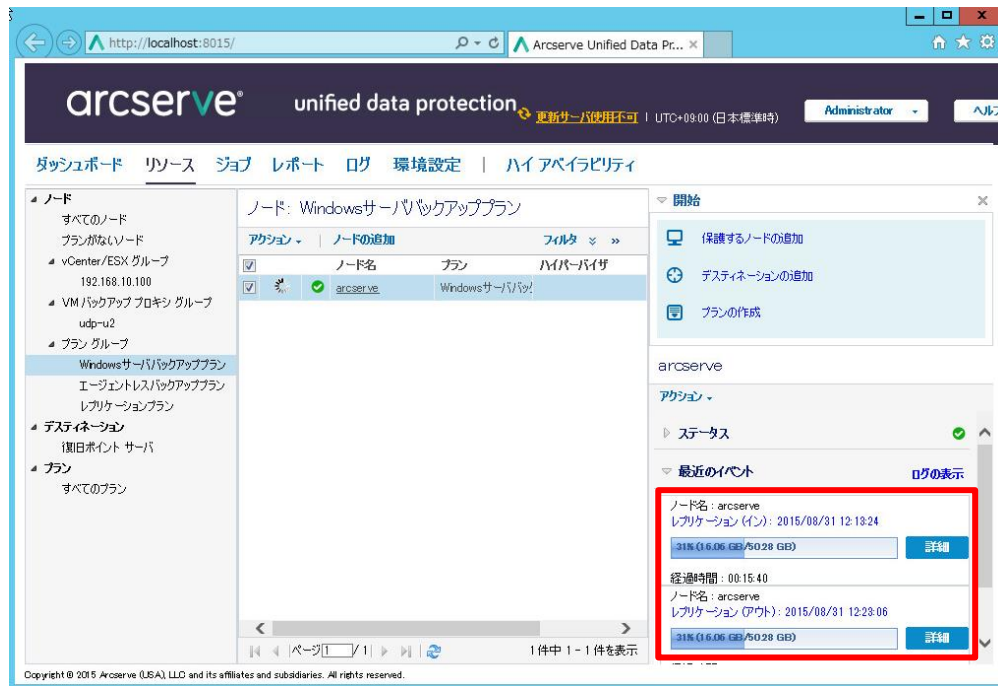
バックアップジョブがサブミットされ、[最新のイベント]にジョブの実行状況が表示されます。



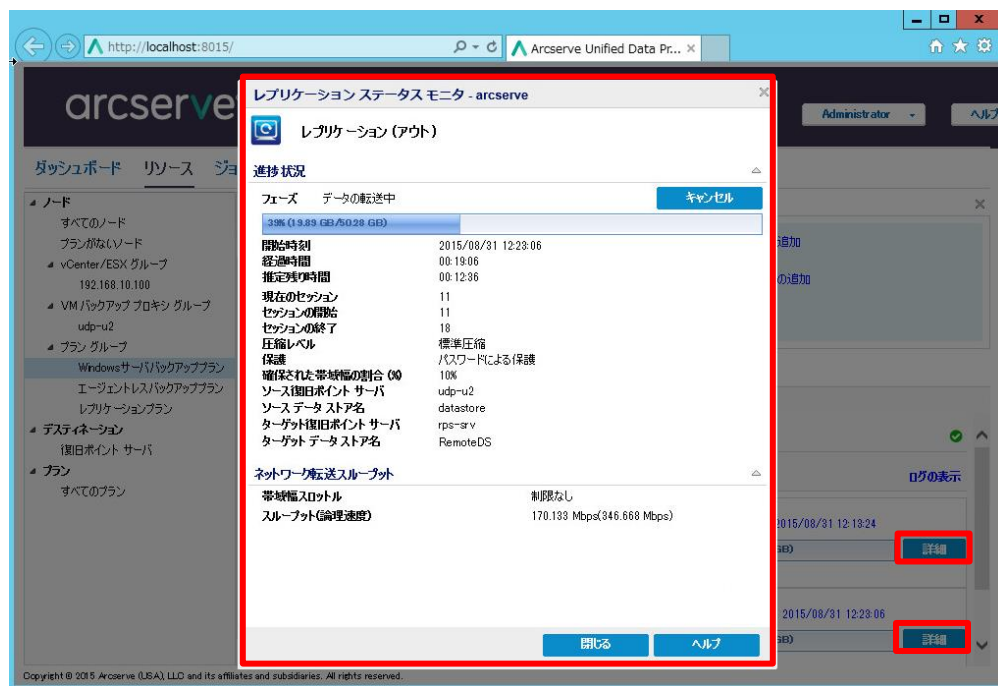
[詳細]ボタンをクリックすると[バックアップ ステータス モニタ]画面でより詳細な状況を見ることができます。



バックアップジョブが完了すると、レプリケートのジョブ “転送先[レプリケーションタスク(イン)]” および、“転送元[レプリケーションタスク(アウト)]” が [最新のイベント] に表示されます。

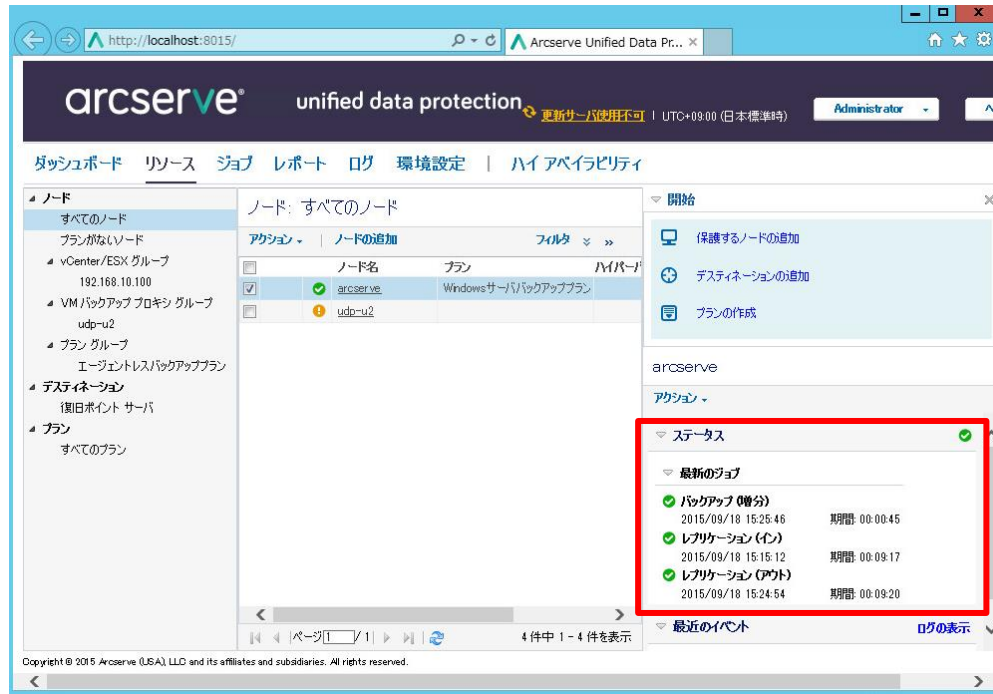


レプリケーションタスク(イン)、またはレプリケーションタスク(アウト) の [詳細]ボタンをクリックすると [レプリケーション ステータス モニタ]の画面で、転送元/転送先のより詳細な状況を見ることができます。



## (3) プランの正常終了を確認

[ステータス]の[最新のイベント]で、“バックアップ”、“レプリケーションタスク(イン)”、“レプリケーションタスク(アウト)”がそれぞれ正常終了したことを確認します。



## &lt;参考&gt;

他の拠点にある復旧ポイント サーバへ大容量のデータを迅速にレプリケートするために、Arcserve UDP では WAN やインターネットなどのネットワークを利用しない（オフライン）レプリケートを行う”RPS ジャンプスタート”という方法が提供されています。

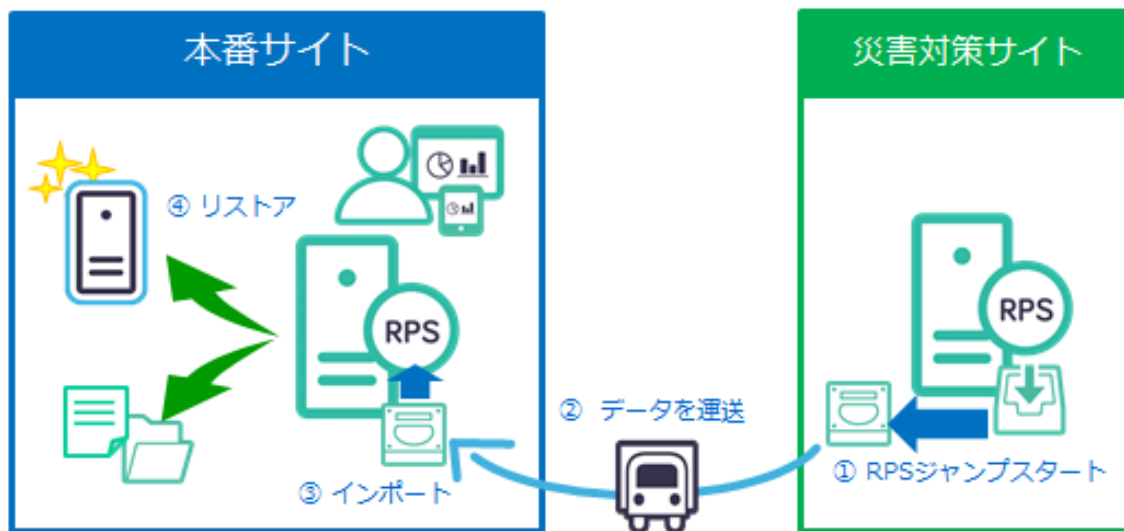
RPS ジャンプスタートの概要や実行手順は、Page: 23 [“3.1 RPS ジャンプスタート機能を利用する手順”](#)を参照ください。

### 3. 災害対策サイトからの復旧手順

本手順では災害対策サイトに転送された復旧ポイントサーバのバックアップデータを使い、本番サイトを復旧するための以下の2つの方法を紹介します。（各方法の詳細については次ページ以降で紹介いたします）

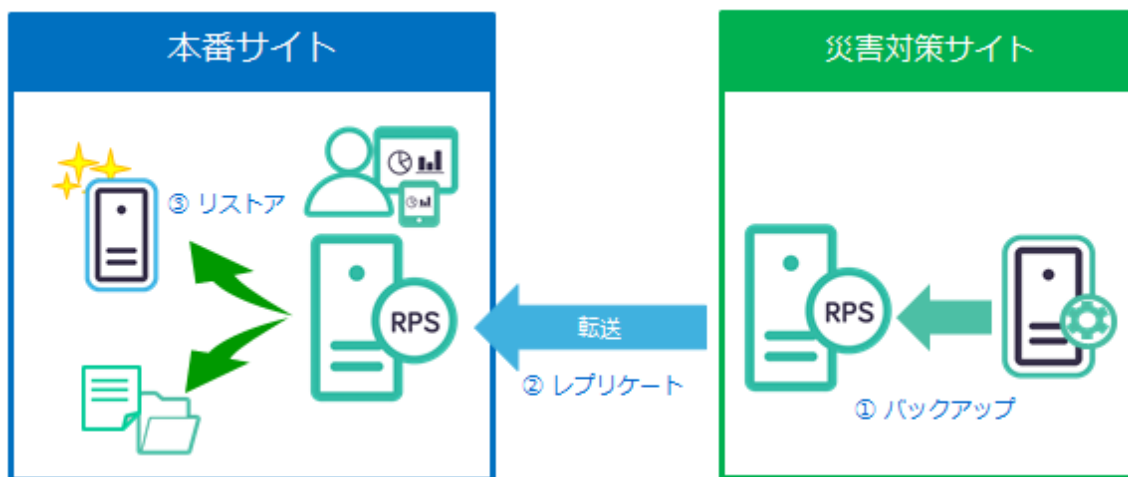
#### 3.1 RPS ジャンプスタート機能を利用する方法

災害対策サイトにあるバックアップデータを USB ディスクなど外部ストレージで本番サイトに搬送



#### 3.2 レプリケートタスクを利用する方法

災害対策サイトで仮運用した業務サーバをバックアップし、本番サイトへ逆向きにデータ転送



災害などで壊れた本番サイトの UDP 管理コンソールと復旧ポイントサーバを再構築する場合は、以下を参照ください。

「Arcserve Unified Data Protection v5 環境構築ガイド (インストール、データストア構築の手順)」

[http://www.arcserve.com/~/media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp\\_v5\\_full\\_install\\_guide.pdf](http://www.arcserve.com/~/media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp_v5_full_install_guide.pdf)

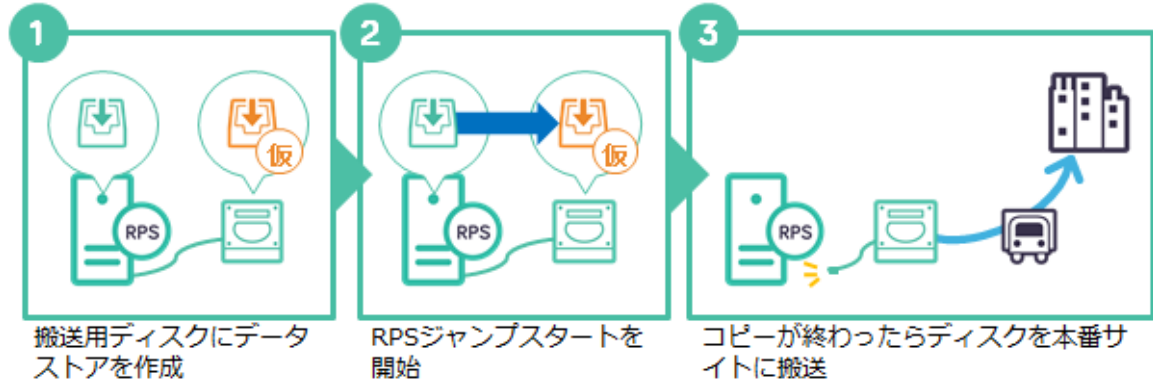


### 3.1 RPS ジャンプスタート機能を利用する手順

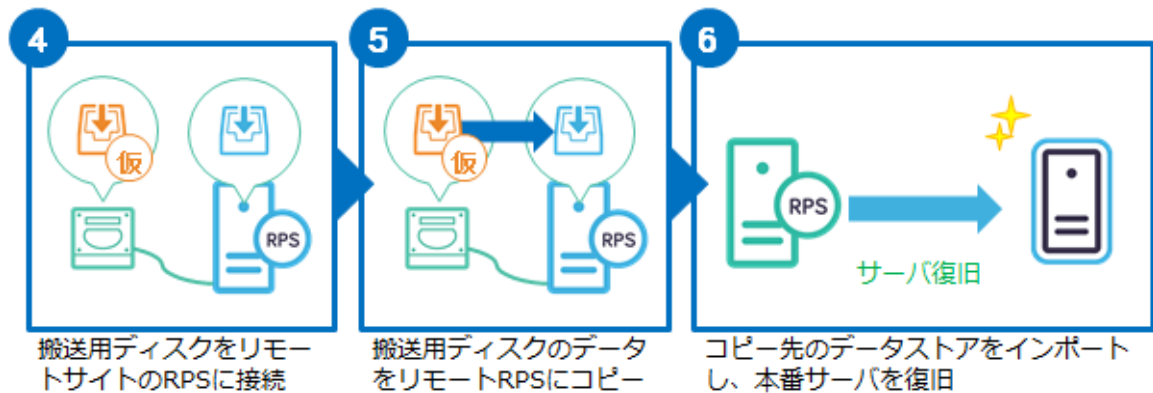
RPS ジャンプスタート機能を使うと、同じ復旧ポイントサーバ内の異なるデータストアに対し、バックアップデータを複製できます。複製されたバックアップデータを他の拠点へ運び、遠隔地の復旧ポイントサーバにインポートすると、2つの復旧ポイントサーバ間で同じバックアップデータを持つことができます。

> RPS ジャンプスタートを使ったバックアップデータ複製手順の流れ

～ 災害対策サイト側の作業 ～ (本手順書の Page: 24 ～ Page: 30 参照)



～ 本番サイト側の作業 ～ (本手順書の Page: 31 ～ Page: 33 参照)



上記①を実施する前に災害対策サイト側の復旧ポイントサーバに対し、バックアップデータの複製先となるストレージ媒体（USB ディスクなど）を接続します。

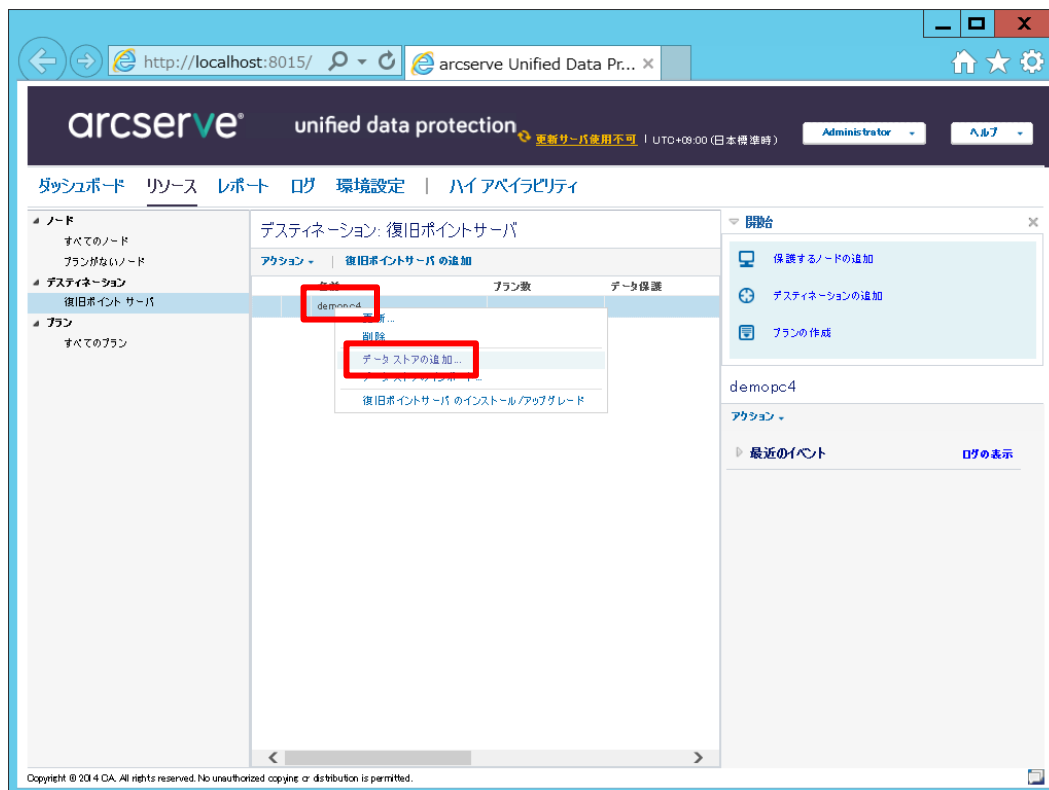
## ～ 災害対策サイト側の作業 ～

## (1) RPS ジャンプスタート用データストアの追加

本番サイトに、搬送用にストレージ媒体を接続します。一時保管用のデータストアを、接続したストレージ媒体上に作成します。

災害対策サイトの復旧ポイントサーバを選択し、右クリックして表示されるメニューから、[データストアの追加]をクリックしてください。

([アクション]メニューから[データストアの追加]をクリックすることもできます。)



## (2) データストアの設定

[データストアの追加]画面で、追加するデータストアの名称を[データストア名]に入力します。

[バックアップ先フォルダ]は、バックアップデータ搬送用のストレージ媒体内のフォルダを指定します。

なお、デフォルトでは[データのデデュプリケート]のチェックがされており、バックアップデータの重複排除機能が有効になっています。本ガイドではデフォルト設定のまま作成を行います。

**※注意：**複製元のデータストアが重複排除機能を使用している場合は、複製先のデータストアの重複排除機能を有効にして作成してください。

複製元のデータストアの重複排除機能が無効な場合、複製先のデータストアの重複排除機能が有効または無効のどちらでも利用できます。

一時保管用のデータストアは、[バックアップ先フォルダ] [データ デスティネーション] [インデックス デスティネーション] [ハッシュ デスティネーション]の 4 箇所のフォルダを**すべて搬送用一時保管のディスク上に設定**してください。

設定完了後、[保存]ボタンをクリックします。

arcserve unified data protection 更新サービス使用不可 | UTC+09:00 (日本標準時) Administrator ヘルプ

ダッシュボード リソース レポート ログ 環境設定 | ハイパフォーマンス

データストアの追加 保存 キャンセル ヘルプ

復旧ポイントサーバ demop04

データストア名  多照

バックアップ先フォルダ  多照

圧縮タイプ  多照

同時アクティブノード  制限なし  次に制限:

データの暗号化

暗号化パスワード

暗号化パスワードの確認

データのデデュプリケート  多照

データ デスティネーション  多照

インデックス デスティネーション  多照

ハッシュ デスティネーション  多照

ハッシュ デスティネーションは ソリッドステートドライブ (SSD) 上にあります。

ハッシュ メモリの割り当て    MB

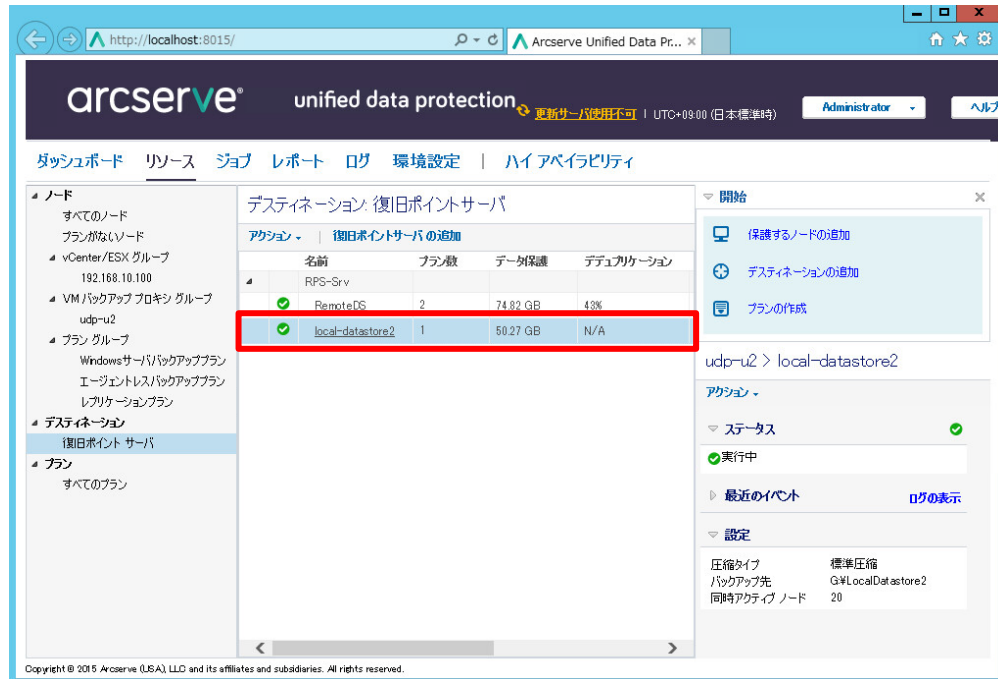
デデュプリケーション ブロック サイズ

メモリおよびストレージの要件の推定

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. No unauthorized copying or distribution is permitted.

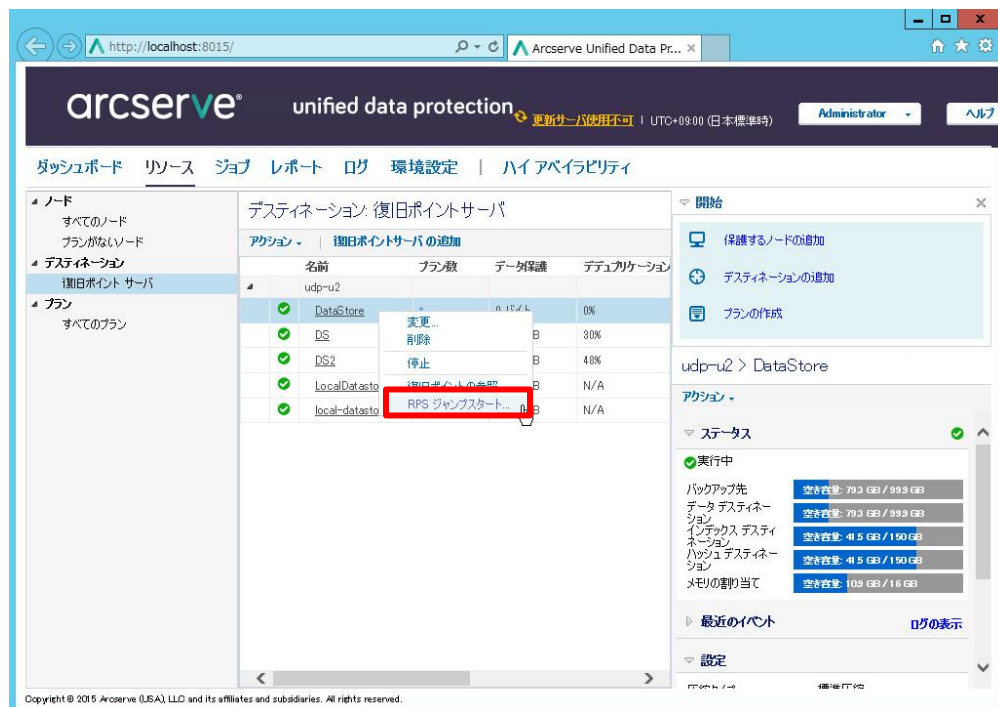
データストアが追加されると、一覧の復旧ポイントサーバ配下にデータストアが表示されます。データストアが正常に開始されたことを確認してください。

以上で搬送用一時保管のデータストア追加は完了です。



### (3) [RPS ジャンプスタート]の実行

災害対策サイトの復旧ポイントサーバから複製元のデータストアを右クリックし、[RPS ジャンプスタート]をクリックします。



## (4) [1. RPS ジャンプスタート ソースの選択]

[RPS ジャンプスタート]画面の [復旧ポイントのマイグレート]から[データ ストアから、同じ復旧ポイントサーバ上の別のデータ ストア]を選択します。

[ソース 復旧ポイント サーバ]と[ソース データ ストア]が、それぞれ複製元の復旧ポイントサーバとデータストアであること確認します。もし異なる場合はそれぞれプルダウンから選択してください。

次に[ノード名]で、復旧対象のノードを選択し、[次へ]をクリックします。

RPS ジャンプスタート

1. RPS ジャンプスタート ソースの選択

復旧ポイントのマイグレート: データ ストアから、同じ 復旧ポイントサーバ 上の別のデータ ストア

ソース 復旧ポイントサーバ: udp-u2

ソース データ ストア: DS

フィルタ: すべてのプラン

マイグレート対象ノードを選択して [次へ] をクリックします。

<input checked="" type="checkbox"/>	ノード名	最初の復旧ポイント	最新の復旧ポイント	復旧ポイントの数
<input checked="" type="checkbox"/>	arcserve1	2015/08/19 13:33:52	2015/08/31 12:12:26	8

1件中 1 - 1 件を表示

ヘルプ **次へ** キャンセル

## (5) [2. RPS ジャンプスタート ターゲットの選択]

[ターゲット データ ストア] で、搬送用一時保管のデータストアを選択します。

RPS ジャンプスタート

2. RPS ジャンプスタート ターゲットの選択

ターゲット 復旧ポイントサーバ udp-u2

ターゲット データ ストア local-datastore2

ヘルプ 前へ 次へ キャンセル

## (6) ジャンプスタートの内容確認

RPS ジャンプスタートの内容を確認し、問題無ければ [完了]をクリックします。

ジャンプスタートが開始され、データのコピーが実行されます。

RPS ジャンプスタート

3. 確認

リスト表示されたノードに対する復旧ポイントは以下のようにマイグレートされます:

RPS ジャンプスタート ソース	RPS ジャンプスタート ターゲット
ソース 復旧ポイントサーバ udp-u2	ターゲット 復旧ポイントサーバ udp-u2
ソース データ ストア DS	ターゲット データ ストア local-datastore2
プラン すべてのプラン	

マイグレートする復旧ポイント

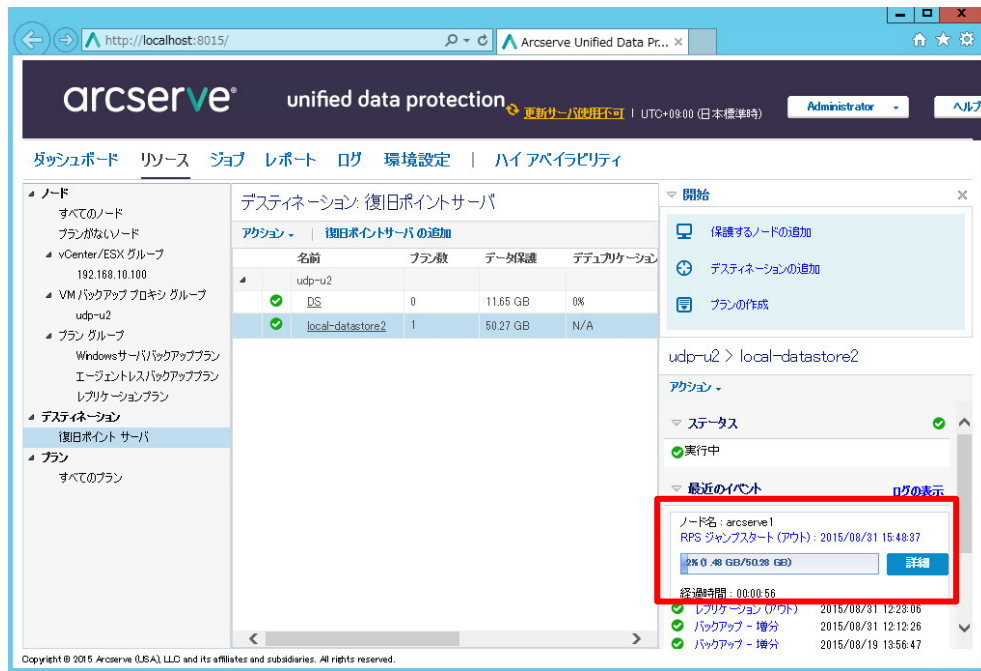
ノード名	最初の復旧ポイント	最新の復旧ポイント	復旧ポイントの数
arcserve1	2015/08/19 13:33:52	2015/08/31 12:12:26	8

1件中 1 - 1 件を表示

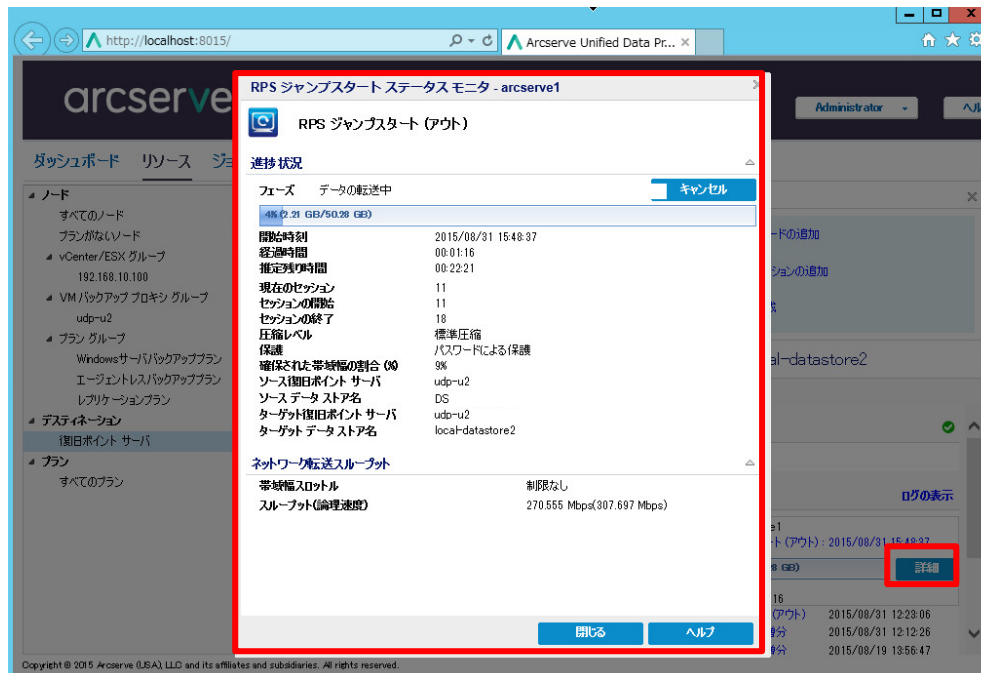
RPS ジャンプスタート処理を開始するには [完了] をクリックします。必要に応じて、追加の手順がここに表示されます。

ヘルプ 前へ 完了 キャンセル

RPS ジャンプスタートを実行すると、[最近のイベント]にジョブの実行状況が表示されます。

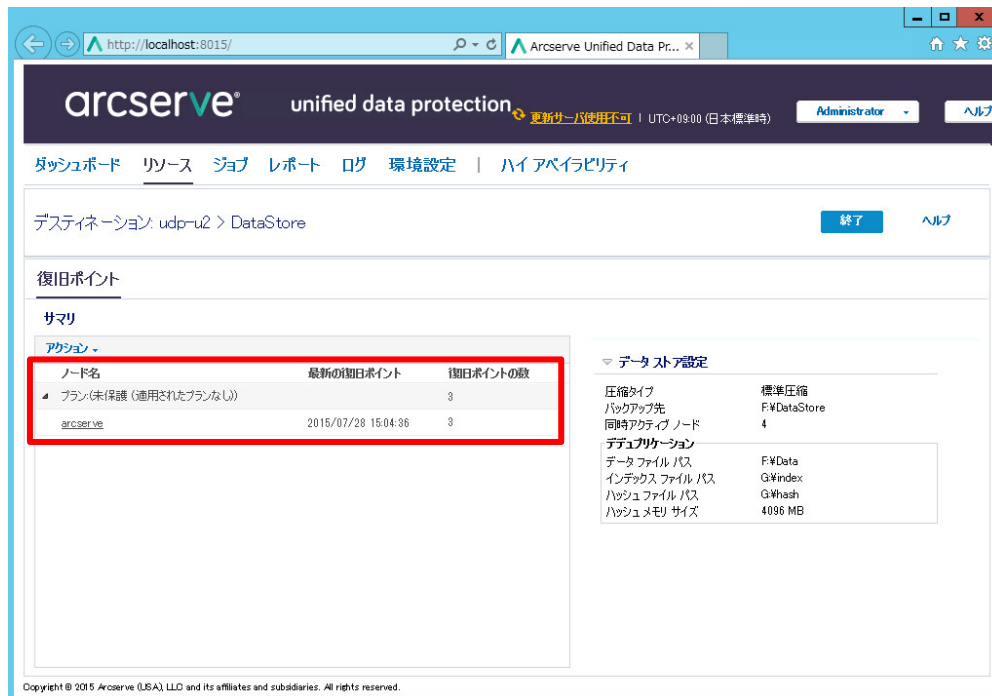


RPS ジャンプスタート タスクの [詳細] ボタンをクリックすると[RPS ジャンプスタート ステータス モニタ]の画面で、より詳細な状況を見ることができます。



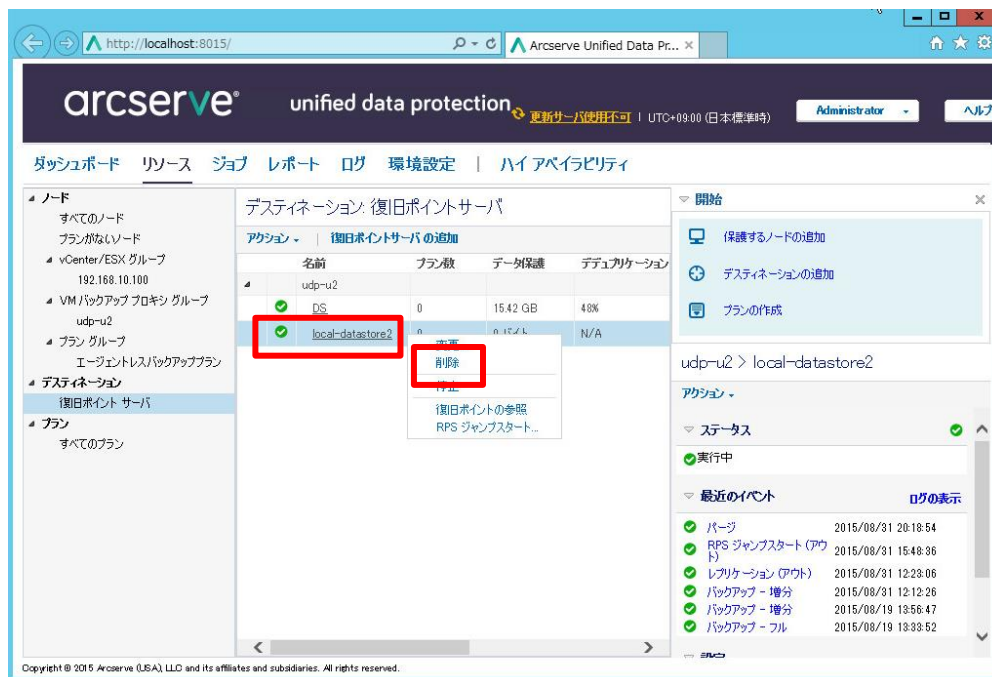
## (7) マイグレートの完了確認

RPS ジャンプ スタート終了後、[リソース]-[復旧ポイントサーバ]-[データストア]で一時保管用のデータストアをクリックし、データストア内に復旧対象サーバが登録されていることを確認します。



## (8) データストアの削除

搬送用のストレージ媒体を復旧ポイントサーバから切り離すため、一時保管のデータストアを選択して[削除]をクリックします。左記手順でデータストアを削除してもバックアップデータ自体は削除されません。データストア削除後、ストレージ媒体を復旧ポイントサーバから外して本番サイトに搬送します。





## ～ 本番サイト側の作業 ～

## (9) データストアのコピー

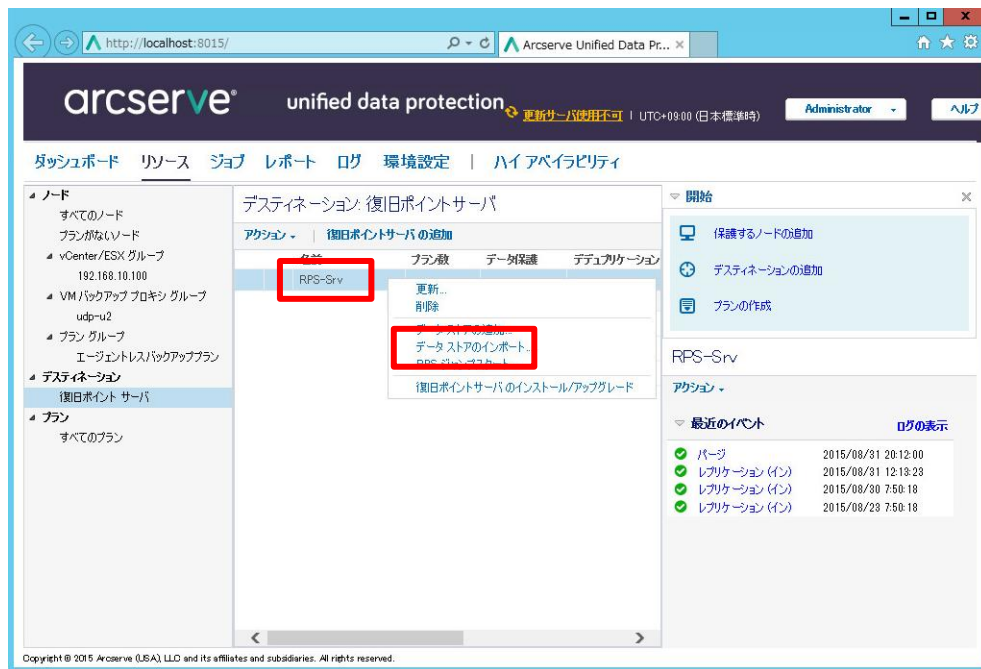
一時保管のデータストアが含まれるストレージ媒体を本番サイトの復旧ポイントサーバに接続し、本番運用バックアップデータの保存先となるフォルダに一時保管のデータストアを、エクスプローラなどを使ってコピーします。

重複排除を有効にしたデータストアの場合は、[バックアップ先フォルダ] [データ デスティネーション] [インデックス デスティネーション] [ハッシュ デスティネーション]の4つのフォルダをコピーします。

4つのフォルダのコピー先は、それぞれ別々のフォルダ/ドライブを指定できます。

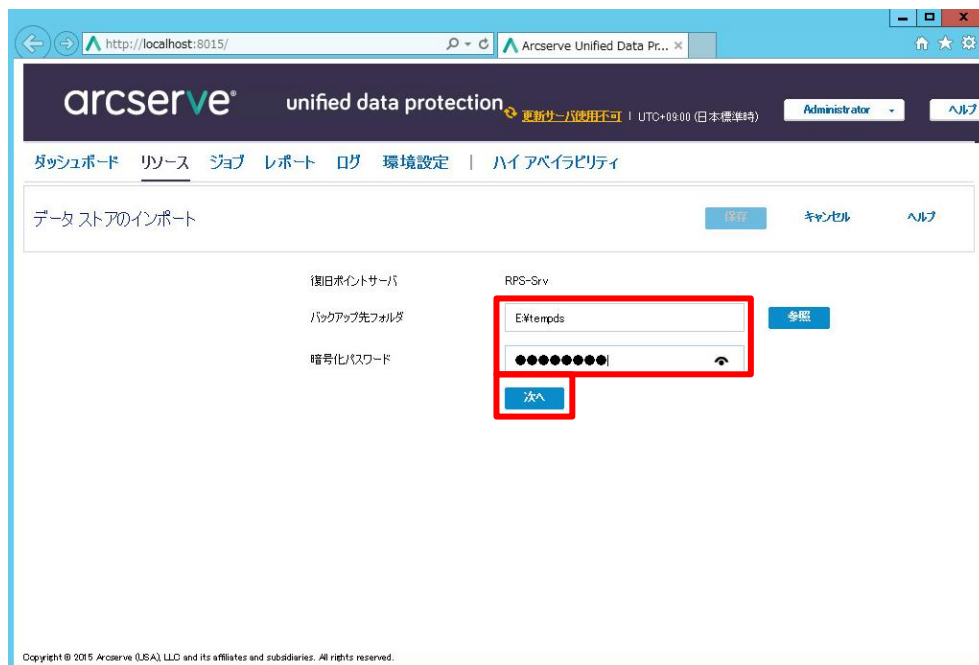
## (10)[データストアのインポート]の実行

本番サイトの復旧ポイントサーバを右クリックし、[データストアのインポート]をクリックします。



## (11)[バックアップ先フォルダ]の指定

[バックアップ先フォルダ]に、バックアップ先をコピーしたフォルダを指定します。データストア作成時に[暗号化パスワード]を指定した場合はパスワードを入力し、暗号化パスワードを指定しなかった場合は、空欄のまま[次へ]をクリックします。



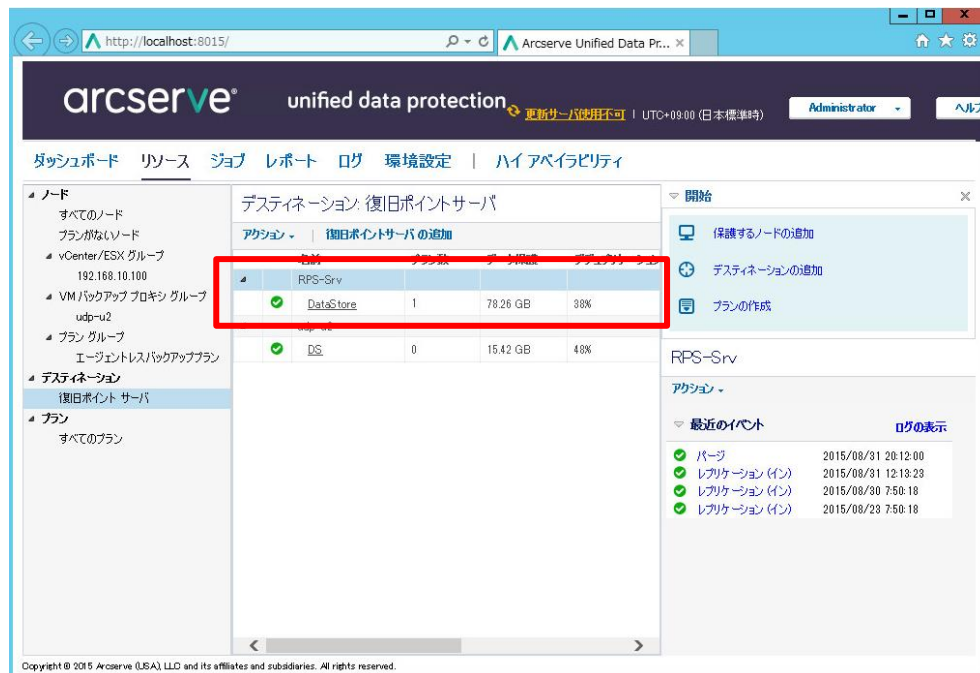
## (12)データストアの設定

[データストア名]を指定します。デフォルトでは一時保管のデータストア名が使用されます。  
[データ デスティネーション] [インデックス デスティネーション] [ハッシュ デスティネーション]はそれぞれコピー先のフォルダを指定し、[保存]をクリックします。



## (13) データストアの確認

本番サイトの復旧ポイントサーバにデータストアが追加されたことを確認します。



## (14) 業務サーバの復旧

本番サイトの復旧ポイントサーバにあるデータストアを利用して、業務サーバの復旧(BMR)を行います。

BMR の手順については、以下を参照ください。

- UDP Agent for Windows

「Arcserve Unified Data Protection v5 Agent 環境構築ガイド(インストールからベアメタル復旧の手順)」

[http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp\\_v5\\_agent\\_BMR\\_guide.pdf](http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp_v5_agent_BMR_guide.pdf)

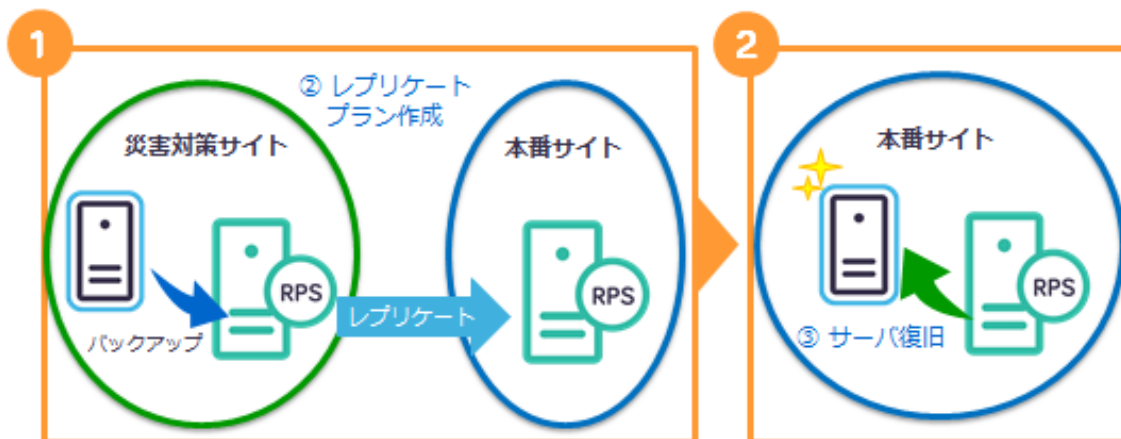
## 3.2 レプリケートタスクを利用する手順

本番サイトが利用できない間、BMR 等を使用して災害対策サイトに本番サイトを同じサーバを復旧して業務を継続させることができます。

本番サイトの復旧後は、災害対策サイトで運用中のサーバのデータを本番サイトに反映させる必要があります。レプリケートタスクを利用すると、災害対策サイトにある最新のバックアップデータを使って、本番サイトのサーバを復旧できます。

ステップ 1. 災害対策サイトの業務サーバをバックアップし、本番サイトの復旧ポイントサーバにデータストアをレプリケートするプランを作成

ステップ 2. ステップ 1.でレプリケートしたデータストアを使い、本番サイトの業務サーバのシステム復旧(BMR)を実施



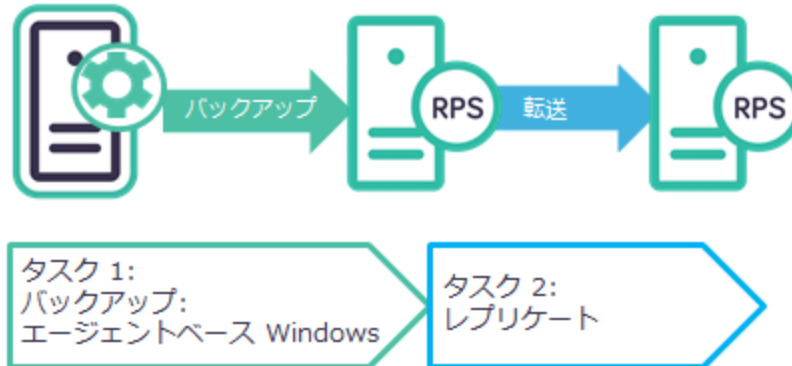
- (1) ステップ 1.では、災害対策サイトから本番サイトにバックアップデータをレプリケートするための以下のタスクを含むプランを作成し、実行します。

タスク 1 : バックアップ: エージェントベース Windows

⇒ 災害対策サイトのサーバのバックアップ

タスク 2 : レプリケート

⇒ 災害対策サイトの RPS から本番サイトへの RPS へのレプリケート



ステップ 2.のプラン作成の手順については、本手順書の以下を参照ください。

[「2.1 バックアップおよびレプリケートのプラン作成」](#) (Page: 11)

- (2) ステップ 2.では、本番サイトにレプリケートされたバックアップデータを使い、業務サーバを BMR で復旧します。

BMR の手順については、以下を参照ください。

- UDP Agent for Windows

「Arcserve Unified Data Protection v5 Agent 環境構築ガイド(インストールからベアメタル復旧の手順)」

[http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp\\_v5\\_agent\\_BMR\\_guide.pdf](http://www.arcserve.com/~media/Arcserve/files/Technical%20Documents/asudp_v5_agent_BMR_guide.pdf)

## 4. 製品情報と無償トレーニング情報

製品のカatalogや FAQ などの製品情報や、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

### 4.1 製品情報および FAQ はこちら

Arcserve シリーズ ポータルサイト

<http://www.arcserve.com/jp/>

動作要件

<https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/articles/201865549>

注意/制限事項

<https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/articles/203837545>

UDP マニュアルメニュー:

<http://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/V5/JPN/bookshelf.html>

### 4.2 トレーニング情報

#### 4.2.0 無償トレーニング

どなたでも参加いただけますので、この機会にご活用ください。半日で機能を速習する Arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。(競業他社の方はお断りしております。)

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/seminar.aspx>